

令和5年度 「障害者の生涯学習支援活動」に係る 文部科学大臣表彰

事例集



障害者の生涯学習を支える全国の取組を紹介



文部科学省総合教育政策局
男女共同参画共生社会学習・安全課障害者学習支援推進室

令和5年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰

事例集の発行にあたって

文部科学省では、障害のある方々が生涯にわたって自らの可能性を追求し、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、多様な学習活動の充実に向け取組を進めています。この取組の一環として、平成29年度から、障害のある方の生涯学習を支える活動について他の模範と認められるものに対して、その功績を称える文部科学大臣表彰を行っています。

今年度は、長年にわたる個人・団体の功績を称える「功労者表彰」について45件、新しいチャレンジや分野を超えた連携の成果が認められた「奨励活動表彰」について6件が表彰されました。これらの多様な活動が、今後のモデルとなり各地で広く展開されていくことを期待しています。

また、本表彰が7年目を迎える中で、障害のある方が支援される活動だけでなく、障害のある方とない方が共に取り組む活動や障害のある方が企画運営に参画する活動等、障害の有無にかかわらず、共に学び、共に生きるための活動が増えていることについて、大変嬉しく思っております。これらの活動は、障害のある方の学びの場であると同時に、障害のない方にとっても、新たな学びや生きがいに出会うきっかけとなるものであると感じています。

今回表彰された皆様の取組を、ぜひとも障害のある御本人様、保護者や支援者の皆様、都道府県、市区町村の障害者の学習支援に関わる皆様、社会教育、特別支援教育、障害福祉に関わる皆様など、幅広い方々に知っていただきたく、ここに1冊の事例集としてまとめました。この事例集を参考にして、各地で障害のある方々の学びの場、機会がさらに広がることを期待しております。

最後に、本事例集の作成にあたりまして、表彰された皆様や都道府県、市区町村、関係団体等の皆様に多大な御協力をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

令和5年12月

文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課

障害者学習支援推進室長 鈴木 規子

目次

主な活動場所	団体名・氏名	活動内容	推薦者	主な連携先	ページ
功労者表彰					
北海道（旭川市）	音訳グループ旭川本の会	読書の楽しみを音で届ける	北海道	旭川市図書館	1
北海道（新ひだか町）	新ひだか町ライディングヒルズ静内	障がい者乗馬支援	北海道	特別支援学校、社会福祉法人、NPO法人等	2
青森県（弘前市、平川市、藤崎町、大鱈町、西目屋村、田舎館村）	山田 金治	障害者の生涯スポーツの支援と普及啓発	青森県	青森県身体障害者福祉協会、弘前市身体障害者福祉会連合会等	3
岩手県	岩手県知的障がい者ソフトボール協会「いわてスマイリーズ」	ソフトボールで岩手を笑顔に！「いわてスマイリーズ」	岩手県	特別支援学校、福祉サービス事業所等	4
岩手県（盛岡市）	デイジー岩手	録音図書製作におけるデジタル録音図書編集作業とボランティアの育成	岩手県	図書館、行政（保健・福祉部局）、社会教育関係団体	5
宮城県（大崎市）	手話小さな勉強会	社会教育活動を通じた、お互いを尊重し合える関係づくり	宮城県	市内及び近隣小学校・市内公民館等	6
秋田県（由利本荘市）	特定非営利活動法人 逢い	自立と共生の地域社会づくりを目指す「虹いろ学級」	秋田県	学校、行政、地元企業・団体等	7
山形県（山形市）	ぎやらりーら・ら・ら	障害のある方の芸術文化活動の促進と普及	山形県	行政・学校・芸術・福祉事業所関係者等	8
茨城県（ひたちなか市）	声のとも	朗読にまごころを込めてお届けします	茨城県	ひたちなか市社会福祉協議会	9
茨城県（龍ヶ崎市）	龍ヶ崎朗読の会	視覚障がい者と共に「わかりやすい音訳を目指して」	茨城県	龍ヶ崎市社会福祉協議会	10
栃木県（真岡市）	朗読ボランティア「ひばりの会」	「音訳」を柱に「読み聞かせ」も	栃木県	真岡市社会福祉協議会 等	11
栃木県（那珂川町他）	認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館	心の枠を解きはなつ、もうひとつの美術館	宇都宮大学	大学、行政、社会福祉法人等	12
埼玉県	埼玉県おもちゃ図書館連絡会	埼玉県内のおもちゃ図書館をつないで活性化！	埼玉県	埼玉県社会福祉協議会等	13
千葉県（成田市）	コスモスの会	声でお届け！ローカル情報から自然科学、宇宙まで	千葉県	成田市立図書館	14
東京都（国立市）	国立五日制の会	地域のみんなで楽しめる土曜日の余暇活動	東京都	小学校、公民館、文化ホール等	15
東京都（東大和市/国分寺市）	菅田 政志	障害者青年教室【ピートクラブ（東大和市）くぬぎ教室（国分寺市）】	東京都	東大和市立中央公民館・国分寺市立並木公民館	16
東京都（世田谷区）	SACミュージカルカンパニー	夢をつかむステージ【POWER & SMILE】	全国特別支援教育推進連盟	特別支援学校、文化芸術団体等	17

目次

主な活動場所	団体名・氏名	活動内容	推薦者	主な連携先	ページ
東京都（新宿区）	NPO法人 障害者就業生活支援開発センターGreen Work21	目白大学におけるオープンカレッジの開催	目白大学	目白大学新宿キャンパス	18
神奈川県（伊勢原市）	朗読・録音ボランティア「野の会」	プライベートサービス（対面朗読）、録音図書製作、朗読会開催、啓発活動等	神奈川県	伊勢原市立図書館	19
富山県（富山市）	知的障害者楽団ラブバンド	夢は必ずかなうもの「明るく元気に自立しようぜ！」	富山県	行政、スポーツ団体、ボランティア団体	20
石川県（白山市）	松平 洋子	聴覚に障害のある人を手話通訳者、要約筆記者として支援	石川県	白山市聴覚障害者協会	21
福井県（福井市）	あとりえ風	あとりえ風「アート教室」	福井県	福井県障がい者芸術文化活動支援センターふくみなーと	22
静岡県	特定非営利活動法人静岡FIDサッカー連盟	いつでも！気軽に！楽しく！サッカー	静岡県	地元パラフットボールチーム、学校等	23
滋賀県（野洲市）	特定非営利活動法人YASUほほえみクラブ	びわ湖若鮎駅伝大会（障害者駅伝大会）	滋賀県	スポーツ推進委員協議会、陸上競技協会等	24
京都府（京丹後市）	吉岡 光義	丹後でアートと福祉をつなぐ「ふなや吉兵衛と仲間たち」	京都府	かがやきの杜、丹後で福祉とアートをつなぐ実行委員会	25
京都府（宮津市）	宮津障害者青年学級運営委員会	続けることは 想いを育み 明日を拓く～みんなと共に歩んだ50年～	京都府	宮津市教育委員会、よさのつみ福祉会等	26
大阪府	Dance Assemble アマカマ・ドゥ	一人ひとりの多様性を受容する、インクルーシブダンス	大阪府	—	27
大阪府（大阪市）	仲間づくりの教室	卒後の生きがいとなる学びの場「仲間づくりの教室」	障害者の文化芸術を推進する全国ネットワーク	大阪市、支援学校、大阪市手をつなぐ育成会など	28
兵庫県（神崎郡市川町）	手話サークルやまびこ	手話をとおして切れ目のない交流を続け、なんでも支援を…	兵庫県	社会福祉協議会、教育委員会	29
兵庫県（神崎郡）	要約筆記ボランティアサークル㊦かんだぎ	聴覚障害者に寄り添う助け舟『要約筆記』を続けて…	兵庫県	社会福祉協議会、教育委員会	30
和歌山県（新宮市）	チーム・ホエール	障害者陸上競技チーム「チーム・ホエール」	和歌山県	行政、NPO法人ハトぼっぼ	31
広島県（広島市）	特定非営利活動法人 コミュニティリーダーひゅーるぼん	表現活動応援プログラム	広島県	社会教育団体、文化芸術団体等	32
広島県（三次市）	三次朗読奉仕者友の会	朗読ボランティアを50年 そしてこれからも	広島県	社会教育関係団体、学校、図書館等	33
広島県（福山市）	特定非営利活動法人神辺育成会	神辺さくらの会	全国特別支援教育推進連盟	知的障害者関係団体、障害福祉サービス事業所等	34

目次

主な活動場所	団体名・氏名	活動内容	推薦者	主な連携先	ページ
山口県	山口県手話サークル連絡協議会	「手話の魅力」を学んで、知って、広める活動中	山口県	社会教育関係団体、文化芸術団体等	35
徳島県	日開野 博	車いすテニスをきっかけに社会参加を！	徳島県	徳島県、徳島県障がい者スポーツ協会、四国大学等	36
徳島県（徳島市）	内藤 久子	生涯学習のきっかけ作り	徳島県	文化芸術団体等	37
愛媛県（久万高原町）	オッカリーナあつがる	障害のある方々と共にふるさとで明るく楽しく過ごす	愛媛県	あつがるハウス久万、久万高原町教育委員会 等	38
熊本県熊本市	大城組の巨匠たち	大城組の巨匠たち ～見て、聞いて、触れて、感じる 思いを表現～	熊本市	NPO法人、病院、美術館等	39
大分県（別府市）	特定非営利活動法人 自立支援センターおおいた	障がい者リーダーが地域を変える	大分県	大分県、別府市、県内大学、地域NPO	40
大分県	藤本 正広	障がいがある方の水泳指導 38年間ひたむきに	大分県	大分県身体障害者福祉センター	41
宮崎県	子どもと家族・関係者の集まり「ポン太クラブ」	こころも体もほつとする、そのままの自分でいられるところ「ポン太クラブ」	宮崎県	九州大学山下亜紀子氏、霧島おむすび自然学校等	42
宮崎県（えびの市）	手話サークルえびの会	手話を言語に～「手話サークルえびの会」	宮崎県	小中学校、行政、医療機関、警察等	43
全国	特定非営利活動法人日本障害者ゴルフ協会	誰もが楽しめるゴルフ環境を創ろう！	公益財団法人日本パラスポーツ協会	(公財) 日本ゴルフ協会/(公財) 日本パラスポーツ協会	44
全国	特定非営利活動法人日本身体障害者野球連盟	この野球を未来の障害児童たちに	公益財団法人日本パラスポーツ協会	(社福)神戸市社会福祉協議会、兵庫県立但馬ドーム	45
奨励活動表彰					
宮城県全域	障がい者サポーターズGolazo！	インクルーシブスポーツキャラバン	全国特別支援教育推進連盟	尚綱学院大学、ペガタ仙台、多賀城市等	46
秋田県	Chain_of_Smiles_Project実行委員会	Chain_of_Smiles_Project ～スポーツを通して秋田の豊かさを体感しよう～	秋田県	スポーツ団体、地元企業、学校等	47
東京都（小平市）	特定非営利活動法人地域ケアさぼーと研究所	訪問カレッジ@希林館	全国特別支援教育推進連盟	特別支援学校、大学、社会教育関係団体	48
島根県（雲南市大東町・加茂町）	3C「夢」club実行委員会	広げよう 深めよう 私の個性 3C「夢」club	島根県	小・中学校、特別支援学校等	49
岡山県（勝央町）	ふたば教室 (勝央町教育委員会-勝央町学校協働協議会)	繋がりで支える放課後子ども教室「ふたば教室」	岡山県	小学校、中学校、公民館、文化ホール等	50
長崎県（佐世保市）	長崎国際大学ピア・サポート学生組織	コラボレティブ・ラーニングによる 大学づくりの実践	長崎国際大学	大学	51

読書の楽しみを音で届ける

功労者

■ 団体名・氏名

音訳グループ旭川本の会

■ 基本データ

継続年数	41年間
主な連携先	旭川市図書館
団体の規模等	39名

対象 視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

ボランティアとして、読書バリアフリーの推進を約40年前から実施しており、主に図書館を利用している視覚障害者に対し、対面音訳（朗読）や録音図書（デイジー図書（デジタル録音図書）や録音テープ）製作などの活動を行っています。

■ 活動内容

毎週火・金曜日、旭川市中央図書館ボランティア室で平均10名が活動しています。図書館を利用する視覚障害者の要望に応じて対面音訳（朗読）を実施したり、録音図書の製作を行っています。

週2回のペースで実施していた対面音訳は、コロナ禍で中断していましたが、令和5年6月からサービス提供時間を短縮して一部再開しました。

これまで、1年間に平均約70タイトルの録音図書を製作するとともに、対面音訳も、コロナ禍前は、年間200時間程度行っていました。

利用者からは、「この取組を通じて、たくさんの本に触れることが出来た。」「対面音訳なので、日常会話も出来る。」などの声があるほか、団体のメンバーからは、「自分自身が、本の言葉や物事について教えられた。」などの声があります。

今後は、旭川市図書館が行っている電子図書館の電子書籍（主にネット上で貸出しできる音声図書）としても利用できるよう、デジタル技術を応用した資料の利活用にも力を入れていきます。



写真1 パソコンを使いデイジー図書を作成中

■ 活動の経緯・体制

1982年、図書館を利用する視覚障害者を対象に、対面で朗読を実施するボランティア団体として活動を開始しました。1986年には録音図書製作を開始し、製作した録音図書は、全て図書館の蔵書としています。録音図書製作には、1冊につき、音訳者1名、校正者2名、デイジー編集・校正者2名の計5名が関わっています。書籍のほか、新聞や雑誌も対象としており、1冊完成させるための期間は約3、4か月を要します。

■ 活動の工夫・成果

対象者（視覚障害者）に対して有効な読書啓発活動となるよう、総会や定期的な打ち合わせなどの機会を利用し、会員の情報共有を図るとともに、対象者・本の会・図書館職員による三者懇談を通じて常に対象者のニーズを把握し、サービスの向上に努めています。

対面音訳の際は、音訳者の主観を入れることなく、書いてあることをできるだけ忠実に音声化するよう心がけています。



写真2 グループでの研修

障がい者乗馬支援

功労者

■ 団体名・氏名

新ひだか町ライディングヒルズ静内

■ URL

<https://www.facebook.com/ridinghills.shizunai/>

■ 基本データ

継続年数	22年間
主な連携先	特別支援学校、社会福祉法人、NPO法人等
団体の規模等	10名

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

日本有数の馬産地である新ひだか町の特徴を活かして、「障がい者乗馬支援事業」に取り組んでいます。特別支援学校の児童生徒や障害福祉サービス事業所等の利用者を中心に、町内外の多くの方々から障がい者乗馬支援を体験しています。

■ 活動内容

町内にある特別支援学校や障害福祉サービス事業所と連携して「障がい者乗馬支援事業」を行っています。

障害福祉サービス事業所の職員の方からは、「乗馬の日は、特に元気で表情が明るい。」などの様子が伝えられることも多いです。

また、特別支援学校の生徒からは、「最初は大きな馬が怖かったが、乗ってみるととても楽しく、また乗りたい！」など、回を追う毎に楽しんで乗馬をする様子が見られます。

年に一度の「障がい者乗馬大会」では、静内乗馬同好会や乗馬スポーツ少年団の協力を得て、日頃の乗馬の成果を発表する機会を提供しています。

「障がい者乗馬支援事業」を利用する障害福祉サービス事業所の職員などを対象に、騎乗者に最も近いところで活動に関わり、馬の横で騎乗者への適切な介助や支援を行うサイドウォーカーのための講習等も行っています。



写真1 障がい者乗馬支援の様子

■ 活動の経緯・体制

当該施設は、情操教育、障がい者の体験乗馬による心身の機能回復、健康づくりや生涯学習、後継者育成などを目的に、「新ひだか町民の乗馬による『人づくりを支援』する施設」として開設しています。町教育委員会の職員10名と「ライディングヒルズサポーター」であるボランティアの方の協力を得ながら、運営・各種事業を実施しています。

■ 活動の工夫・成果

学校の引率教員や障害福祉サービス事業所の支援員が、乗馬指導員と利用者の意思疎通のサポートをして、障がい者乗馬支援を実施しています。

また、施設での活動だけでなく、町内の各小中学校に馬運車で馬と一緒に訪問し、特別支援学級に在籍している児童生徒にも、馬との触れ合い等を体験する機会を提供しています。



写真2 障がい者乗馬大会の様子



障害者の生涯スポーツの支援と普及啓発

■ 団体名・氏名

山田 金治

■ 基本データ

継続年数	27年間
主な連携先	青森県身体障害者福祉協会、弘前市身体障害者福祉会連合会等
団体の規模等	70名

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

障害者同士や障害者と健常者が共に学び、共に楽しむことができる障害者スポーツ活動の支援と普及啓発を行い、身体障害者の体力向上や活力の増進だけでなく、地域住民が一体となった運営体制づくりや学び合いの環境整備に大きく貢献しています。

■ 活動内容

障害者にもスポーツを通して、体力づくり、健康づくり、仲間づくりをし、生きるための活力を増進してほしいという思いをもち、昭和50年4月から大鰐町身体障害者福祉会の理事として、また、平成8年5月から津軽地区身体障害者福祉協議会会長として、障害者の生涯スポーツの支援と普及啓発に取り組んでいます。

障害者を支援する地域住民やスポーツボランティアのリーダーとして模範となっており、津軽地区身体障害者スポーツ大会の会長として、通算で27年間、大会運営に携わっています。楽しい雰囲気づくりを大切に、障害者が無理なく楽しみながら学び続けることができる支援を心がけています。

スポーツ大会は、地区住民を対象に障害者スポーツの理解と楽しさを広め、障害者と健常者相互の理解と協調性を高めています。また、サポートに当たる障害者スポーツ指導員の育成や、手話通訳者の活用にもつながっています。



写真1 津軽地区身体障害者スポーツ大会で挨拶をする山田金治氏

■ 活動の経緯・体制

青森県身体障害者相談員として、自らの経験を元にした障害者の気持ちに寄り添う対応のスキルを生かしながら、障害者同士や障害者と健常者が共に学び共に楽しむことができる、障害者のスポーツ活動に携わってきました。津軽地区身体障害者スポーツ大会は昭和46年に中弘南黒身体障害者スポーツ大会として始まり、平成19年から関係市町村で事務局を1年ごとにローテーションし、津軽地区全域に渡って大会運営に当たっています。

■ 活動の工夫・成果

スポーツに親しみ、他者と共同して活動することが困難な障害者が、スポーツ大会に出場することで、自分の体力や能力に合わせたスポーツの楽しさを味わい、参加者同士の会話や交流により、集団の中で活動できるようになり、生涯スポーツとして学び続けることができるようになりました。例年参加を楽しみにしている方が多く、身体障害者の体力向上や活力増進、地域住民が一体となった運営体制づくりや学び合いに貢献しています。



写真2 津軽地区身体障害者スポーツ大会開会式の様子

ソフトボールで岩手を笑顔に！「いわてスマイリーズ」

功労者

■ 団体名・氏名

岩手県知的障がい者ソフトボール協会
「いわてスマイリーズ」

■ URL

<http://fid-soft-iwate-smileys.jimdo.com>

■ 基本データ

継続年数	12年間
主な連携先	特別支援学校、福祉サービス事業所等
団体の規模等	30名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

いわてスマイリーズは、知的障がい者を対象とした男女混合のソフトボールチームです。ソフトボールという団体競技を通して、仲間と協力し活動する楽しさを味わいながら、体力の保持増進、将来の社会参加及び自立に向けて基本的な規律や社会に適応するためのマナーなどを学び、健全な態度を育てるため、様々な協力団体と連携しながら活動しています。

■ 活動内容

いわてスマイリーズは、知的障がいをもつ男女混合のチームで、10代から40代の選手が所属しています。練習は毎週日曜日に実施しており、選手とスタッフが意見交換しながら実戦の機会を増やすなど工夫を重ねております。休日の余暇活動を目的とした者、純粋にスポーツが好きな者、勝ちにこだわり練習に励む者、仲間とのふれあいを楽しみたい者など様々な活動ニーズをもつ選手が所属していることから、スタッフが積極的にコミュニケーションを図ることを大切にし、選手一人ひとりの思いや願いに応えています。また、集団での活動による規律の遵守にも繋がっており、競技の技術向上はもちろんのこと、社会参加や自立に必要な力を身につけるための機会や、学校卒業後の交流の場となっています。令和4年度には岩手県立生涯学習推進センターの研修会において実践発表をし、広く活動の様子を紹介しました。令和5年度には、特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」に、北海道・東北ブロック代表として出場しました。



写真2 円陣を組んで、作戦タイム



写真1 いわてスマイリーズ集合写真

■ 活動の経緯・体制

岩手県障害者社会参加推進センター（現岩手県障がい者スポーツ協会）の主催で開催された"知的障がい者のためのソフトボール交流教室"の参加者を中心に声をかけ平成23年に結成されました。野球経験者や支援学校教員、一般のソフトボール経験者を中心に、指導者やスタッフを募り、地域の運動公園や屋内施設などを会場に練習会を実施しています。場合によっては練習会場までスタッフが送迎するなど参加しやすい体制を整えています。

■ 活動の工夫・成果

参加選手によっては、経済的な基盤が弱く、移動費や遠征費、用具代の工面が難しい方もいます。そのため、家族やスタッフが練習場所までの送迎を担ったり、経済的な負担軽減のため、チームの運営費から補助を出したり、財源の確保のため助成金を活用したりしています。

一般就労している選手は、職場の理解が必要なため、マネージャーやスタッフが、就業状況の確認も兼ねて、就労先へ訪問し活動説明及び理解促進に努めています。

録音図書製作におけるデジタル録音図書編集作業と ボランティアの育成

功労者

■ 団体名・氏名

デイジー岩手

■ URL

<https://www.normanet.ne.jp/~iwadsytc/>

■ 基本データ

継続年数	24年間
主な連携先	図書館、行政（保健・福祉部局）、社会教育関係団体
団体の規模等	24名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

視覚障がい者の読書環境の整備推進のため、岩手県立視聴覚障がい者情報センターが製作する録音図書をデジタル加工し、編集する作業を行っています。また、同センターが行うデジタル録音図書編集奉仕員養成講習会や奉仕員体験会で講師を担うなど、後進の育成や岩手県民へ向けて録音図書の普及啓発にも努めています。

■ 活動内容

1 デジタル録音図書編集

主に視覚障がい者が利用する録音図書を編集・完成させる作業です。音訳奉仕員が本を読み、録音した音声をパソコンに取り込み、目次やページを付けるなどのデジタル加工を行います。当会は毎年約150枚のデジタル録音図書を編集、製作しています。近年の編集ソフトやIT技術の進歩に対応するため、毎月の例会などで学習活動を継続し、会員の技術の向上に取り組んでいます。

2 ボランティアの育成と普及啓発活動

岩手県立視聴覚障がい者情報センターが毎年行うデジタル録音図書編集奉仕員養成講習会に協力し、全18講座53時間で講師を担い、後進の育成に努めています。また、同センターが行う奉仕員体験会にも毎年協力しており、デジタル録音図書やその製作に関わるボランティア活動について、多くの岩手県民に知ってもらおうよう努めています。



写真1 録音図書再生機についての学習会の様子

■ 活動の経緯・体制

平成11年、岩手県のデジタル録音図書編集奉仕員養成講習会の最初の修了生9名を会員に、視覚に障がいがある方々の役に立ちたいという思いをひとつに設立しました。現在は会長、副会長はじめ24名の会員で活動しています。また、会員はデジタル録音図書編集奉仕員として、岩手県立視聴覚障がい者情報センターやそれぞれの自宅で、デジタル録音図書編集のボランティア活動に取り組んでいます。

■ 活動の工夫・成果

デジタル録音図書編集に当たっては、最新の知識や技術の習得、事例検討などを例会で行い、質の高い録音デジタル図書の製作を目指しています。近年ではテキストデイジー（活字での読書困難な方が、合成音声ソフトでの読み上げ、拡大表示等で利用する電子書籍）の編集も行っています。また利用者である視覚障がいのある方を例会にお招きし、意見を直接伺い、利用者の立場に立ったデジタル録音図書の編集を心がけています。



写真2 会員の集合写真（令和5年3月の例会後）

社会教育活動を通じた、お互いを尊重し合える関係づくり

功労者

■ 団体名・氏名

手話小さな勉強会

■ 基本データ

継続年数	34年間
主な連携先	市内及び近隣小学校・市内公民館等
団体の規模等	22名

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

ろうあ者と健常者が所属する社会教育関係団体で、月2回の定例会での手話の学び合い、公民館や小学校等との機関と連携した福祉学習の機会を提供しています。また、福祉イベントに限らず多様なイベントに参加し、ろうあ者への理解を深める活動を積極的に行っています。

■ 活動内容

手話小さな勉強会は、ろうあ者3名と健常者19名が所属する社会教育関係団体で、障害のある方とともに手話を学ぶ団体として1989年に活動を始めました。

現在も月2回の定例会で手話を楽しく学び合い、手話の技術のみならず、障害のある方とのより良いコミュニケーションのあり方を模索し続けています。

また、活動を継続していく中で、市内の公民館や近隣市町の小学校から手話講座の指導を依頼されるようになり、福祉学習等の事業で年間10回程度、手話の指導を通じて障害のある方とのコミュニケーションの重要性を広めています。

その他、市内外の福祉イベントや公民館まつりなど、多様なイベントに積極的に参加し、障害のある方への理解を深める活動を行っています。

こうした社会教育活動を通じて障害のある方の活躍の場や社会との交流の場を設け、生きがいづくりや自己有用感を育むとともに、広く障害についての理解を深める活動を行っています。



写真1 月2回の楽しい定例会

■ 活動の経緯・体制

手話講座を受講したメンバーを中心に発足し、当初は自主的な手話の学習会として活動していましたが、公民館等の社会教育施設を活動拠点としていたこともあり、学校や各種団体の学習ニーズに精力的に応えるよう心がけていました。その結果、人や団体とのつながりが生まれ、公民館や小学校での福祉学習等にお声がけいただくようになり、現在の活動の基盤となっています。

■ 活動の工夫・成果

「手話」はあくまでも障害のある方とのコミュニケーション手段の1つとして捉えており、活動の目的は障害のある方と健常者との心のつながりを育むきっかけづくりと考えています。そのため、公民館や小学校などで健常者に向けて講座を行う場合には、障害のある方と直接ふれ合う機会を設けられるよう、障害のある方と健常者の会員の両者で対応するようにしています。



写真2 小学校での福祉学習

自立と共生の地域社会づくりを目指す「虹いろ学級」

■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人 逢い

■ URL

<https://www.youtube.com/@npo7526>

■ 基本データ

継続年数	16年間
主な連携先	学校、行政、地元企業・団体等
団体の規模等	12名

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

地域で生活する障害児者に対して、多様な主体と連携しながら創作活動や生産活動等に係る学習会や体験活動を行い、地域社会との交流促進を図っています。ノーマライゼーションの理念に基づき、障害の有無に関わらず誰もが生きがいを持って生活できるよう「自立と共生の地域社会づくり」を目指しています。

■ 活動内容

「虹いろ学級」は、主に由利本荘市内の公共施設を活用して、生活上の知識（インターネット安全教室やリサイクル講座）、健康づくり、地域文化などを学ぶ講座を行うもので、障害者が地域で生涯にわたって学び続け、社会生活を営んでいくための基盤を提供しています。

地元の高校や企業等と連携して、織物や手芸といった手作業、コンピューターを使ったアニメーション制作、アート交流会などの創作的な活動にも取り組んでおり、参加者の視野を広げ、学習の意欲を高めるきっかけづくりが図られていることも特色です。

また、料理教室やスポーツ（創作ダンスやボッチャ）など、参加者からの要望が高い活動を定期的に行う中で、自分たちのできる役割を考え、自立につながる意識付けにもなっています。

地域で持続可能な活動となることを目指し、行政との役割分担や他の事業所との連携強化について話し合いを進めています。



写真1 秋田の伝統文化を学ぶ：湯沢のカシマサマ

■ 活動の経緯・体制

法人は平成19年に設立され、障害者が地域で生涯にわたって学び続け、社会生活を営んでいくための基盤づくりに取り組んできました。令和元年から県のモデル事業を受託して「虹いろ学級」をスタートさせ、活動を充実させています。

由利本荘市内の福祉事務所、行政、特別支援学校等の各種団体と定期的な連絡会議を行いながら、地域に根差した活動を展開しています。

■ 活動の工夫・成果

障害者が生涯にわたって学び続けるための基盤づくりを図るため、ニーズが高い活動だけでなく、地域で生活していく上で必要な知識や健康づくりに関する学習、創作活動なども取り入れています。

参加者は「虹いろ学級」で仲間と一緒に活動することを楽しみにしています。活動内容に対する質問や要望も出るようになり、学習への意欲や生活面での意識付けに効果が現れています。



写真2 料理教室：ピザを作ろう



障害のある方の芸術文化活動の促進と普及

■ 団体名・氏名

ぎやらりーら・ら・ら

■ URL

<http://www.y-aisenkai.com/info/lalala/>

■ 基本データ

継続年数	12年間
主な連携先	行政・学校・芸術・福祉事業所関係者等
団体の規模等	3名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

障がいのある方の芸術活動の発信と人材交流の場として、福祉と芸術文化のかけ橋になるよう、ギャラリーを地域に開いていく活動を行っている。企画展や、トークイベント、ワークショップ、オープンアトリエなども年間通して開催している。

■ 活動内容

山形県障害者芸術文化活動普及支援事業として、障がいのある方の活動充実のため「相談支援」「人材育成」「ネットワークづくり」「発表機会の創出」「調査発掘・発信」に取り組んでおり、多様性の理解促進を図り、新たな価値創造の発信を続け、互いを尊重し理解しあえる包容力のある地域社会創造のため活動している。障害者芸術作品公募展やギャラリーでの企画展等を実施し、表現を発表する場を作っている。また、工業やデザインの分野と連携し、障がいのある方の表現作品を二次使用して商品や広報物に展開する活動も始め、社会参加と活躍の機会を増やしていくことにも力を入れています。表現する場を作るだけでなく、自分で表現できるようになることを大切にしている。その他、県内の展覧会や研修会・ワークショップなどの企画協力を行っており、行政・学校・芸術・福祉事業所関係者の他、学生なども加わり連携することで表現活動に関わる人材育成につなげています。

地域社会において、障がいのある方や生きづらさを抱える方に対する価値観の転換につなげ、多様性への理解を深め、新たな価値づくりを支援し、互いを尊重しあう地域の包容力の向上に取り組んでいます。



写真2 ギャラリーの展示の様子



写真1 白鳥建二さんとアートを見に行くワークショップ

■ 活動の経緯・体制

社会福祉法人愛泉会では、2011年に障がいのある人の作品を展示する場「ぎやらりーら・ら・ら」を開設し、2016年から山形県の事業として「やまがた障がい者芸術活動推進センター」を立ち上げ、山形県内の障がいのある人の芸術活動の普及支援に取り組んでいます。2020年からは、山形県障害者芸術文化活動普及支援事業(厚生労働省)として「やまがたアートサポートセンターら・ら・ら」を立ち上げ、山形県障害者芸術文化活動普及支援センターを担い、県の障がい者芸術活動の推進拠点となっています。

■ 活動の工夫・成果

外部の専門家（アーティスト）と活動し協働することで、福祉事業所に足りないスキルや人材と連携する仕組みを創出しています。表現活動により、一人一人が肯定され活躍する事業をとおして、各地域のエンパワーメント力が向上し実践事例が増え、障がいのある方の、表現活動機会の活性化及び多様化、インクルーシブな視点で活躍の場を増やし、社会参加を促進して文化的に生き、生活の質を上げることに繋がっています。

朗読にまごころを込めてお届けします

■ 団体名・氏名

声のとも

■ URL

<https://www.genkinet-hitachinaka.jp/contents.html?type=activity&id=2281>

活動の概要

視覚に障害のある方たちへの情報提供として、市報や社会福祉協議会の広報誌、図書などを音訳しています。また、ひたちなか市社会福祉協議会主催の朗読ボランティア講座の講師を務め、後進の育成を図ったり、定期的に朗読発表会を行い、地域住民に対して普及啓発活動を行っています。

■ 活動内容

「声のとも」は視覚障害者が必要な情報を得るための協力・奉仕を行うことを目的に昭和53年に設立した団体です。ひたちなか市や社会福祉協議会の発行する広報紙の音訳や、自らのサークルの作成するテーブルマガジンの作成、依頼を受けた図書や資料の音訳、対面朗読による情報の提供を行っています。また、毎月会員が集まり朗読についての学習を行なう他、外部から講師を招いて指導を受けて朗読技術の研鑽にも励むとともに、学習成果の発表として、朗読発表会を実施しています。

最近では、録音メディアがCDに移行することに伴うデジタル録音機器の操作の勉強会を開き、新たな知識を学んだり、社会福祉協議会の主催する「朗読ボランティア養成講座」の講師を務め、後進の育成にも積極的に活動しています。



写真 2

朗読発表会

■ 基本データ

継続年数	45年間
主な連携先	ひたちなか市社会福祉協議会
団体の規模等	27名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他



写真 1

朗読講座で発声や抑揚の練習

■ 活動の経緯・体制

昭和53年9月、視覚障害者の福祉推進とコミュニケーションを目的に設立しました。現在は市報・福祉ひたちなか音訳係27名、CDマガジン発行係5名、勉強会・交流会係7名で、月に平均20名程度集まり2回以上活動しています。

今後は、図書館や教育委員会と連携し、学校や学童での朗読活動を通して幅広い世代に朗読の啓発を行く予定です。

■ 活動の工夫・成果

視覚障害者への対面朗読技術向上のため月に2回勉強会を実施しています。また、当事者から音訳の意見を聞き、読むスピードや抑揚などを工夫して音訳するように心がけています。

さらにこれまでのつながりを生かして、視覚障害者の行事（針きゅうマッサージ奉仕会など）へ積極的に協力しています。

視覚障がい者と共に「わかりやすい音訳を目指して」

功労者

■ 団体名・氏名

龍ヶ崎朗読の会

■ 基本データ

継続年数	36年間
主な連携先	龍ヶ崎市社会福祉協議会
団体の規模等	36名

対象 視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

視覚障がい者に、「市広報紙」（月2回）、「社協だより」（年4回）、そのほか会独自の声の雑誌「ジョイフルタイム」（年3回）を発行している。年2回視覚障がい者との交流のためのバスハイクや食事会を行い、その交流で得た知識を生かし、市内の各小学校で、自主製作のスライド「目の不自由な人について考えよう」を使いながら福祉体験講座を開き、視覚障がい者への理解促進に努めています。

■ 活動内容

「龍ヶ崎市朗読の会」は昭和62年に視覚障がい者の支援のために設立した団体です。龍ヶ崎市の広報紙や「社協だより」の音訳などを行い、交流及び外出支援を目的に研修会を実施し、市内の小学校においてアイマスクガイド指導なども行っています。

デジタル化したことで市のホームページにも音声ファイルを提供することができるようになり、機械ではなく「人」の声は温かみがあると好評です。年3回発行の「ジョイフルタイム」は、3か月ほどかけて、身近なテーマを見つけて、取材、原稿作り、録音、編集をして1時間程度のCDを製作しており、リスナーの方がとても楽しみにしてくれています。

市内の小学校でのガイド指導は、以前は会員のみで行っていましたが、現在は視覚障がい者にも参加していただいているので、普段接触する機会の少ない子ども達には実際にガイドをしたり、話を聞かせてもらう貴重な体験になっています。



写真1 広報紙の音訳作業の様子

■ 活動の経緯・体制

36年前に社会福祉協議会の音訳講座から始まり、「聞きやすい、内容のよくわかる音訳」を目指して取り組んでいます。はじめは録音場所がなく、機材をもって移動したりしましたが、現在は録音室のある龍ヶ崎市地域福祉会館を中心に活動しています。全員による月2回の定例会と、グループに分かれての広報紙等の作成があります。

■ 活動の工夫・成果

初期の頃はテーブルで広報紙の音訳を行っていましたが2010年にCDに変わりました。聞きやすい、内容のわかる音訳を目指して、講師を招いて勉強会をしたり、個人でNHK等の講習を受けたりしており、その成果発表の場として、視覚障がい者も参加する「朗読会」を開催しています。

また、社会福祉協議会の講座に会から講師を派遣し、新たな人材の育成にも努めています。



写真2 小学校でのガイド指導の様子



「音訳」を柱に「読み聞かせ」も

■ 団体名・氏名

朗読ボランティア「ひばりの会」

■ 基本データ

継続年数	41年間
主な連携先	真岡市社会福祉協議会 等
団体の規模等	26名

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

視覚障害者の音訳ボランティアとして、昭和57年に活動を始めました。音訳テープ・デイジーの作成（市議会だよりや話題のお店の紹介など）により、視覚障害者の日常生活に役立つ情報を提供しています。また、視覚障害者との交流事業をとおして、社会参加への支援を行っています。さらに、児童発達支援センターでの交流会や読み聞かせなども行い、幅広く障害者を支援する活動を目指しています。

■ 活動内容

ひばりの会は、会の目的を「障害者に対する音訳、朗読活動や福祉に関する活動を行い、会員相互の親睦と研修を深めながら、視覚障害者の文化の向上に寄与することを目的とする」と会則に定め、昭和57年に発足、今年で42年目を迎えます。主な取組としては、市の広報誌「広報もおか」（月1回）、地元紙「真岡新聞」（週1回）、依頼図書や会報などの音訳活動を行い、音やテープやデイジーを図書館へ寄贈し、利用者へ提供しています。この他、市のコミュニティFMラジオ「FMもおか」において、市の広報誌を録音して放送し、市内全域の視覚障害者に情報提供を行うなど、地域に根ざした活動を続けています。また、視覚障害者との交流会や研修の際の活動の手助けなど、障害者との相互理解を深めることに努めています。さらに、市児童発達支援センター（旧ひまわり園）を訪問して読み聞かせや紙芝居の実演、交流会を行い、子ども達の発達を支援するなど、幅広く障害者を支援する活動を目指しています。



写真1 音訳録音風景

■ 活動の経緯・体制

社会福祉協議会主催の「朗読奉仕員養成講習会」の修了者が会員となり、昭和57年に発足し、現在は26名が在籍しています。5つの班に分かれ、市の広報誌、地元紙を分担して音訳しています。また、5つの班とは別に活動班を作り、班毎に図書館、学校、養護施設、病院の小児科病棟などで読み聞かせをし、その他依頼された会報や図書の音訳を行っています。

■ 活動の工夫・成果

音訳技術と朗読技術を高めるため月2回の定例会後に勉強会を実施し、また希望者は、外部の音訳技術講習会や朗読講座、NHK朗読講習会等を受講しています。自己研鑽により技術を高め、わかりやすい情報を提供することで、視覚障害者の社会参加に貢献しています。特に、話題のお店の紹介を録音したテープは評判が良く、実際に店舗に足を運ぶ利用者もあり、視覚障害者の自立や生活の充実に繋がっています。



写真2 児童発達支援センター（旧ひまわり園）訪問の様子

心の枠を解きはなつ、もうひとつの美術館



■ 団体名・氏名

認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館

■ URL

<http://www.mobmuseum.org/>

■ 基本データ

継続年数	22年間					
主な連携先	大学、行政、社会福祉法人等					
団体の規模等	会員111名					
対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

本会は栃木県那珂川町の里山に建つ明治大正の面影を残す旧小口小学校の校舎を再利用して2001年に開設された美術館です。障害のある人の芸術活動を支援しながら、[みんながアーティスト、すべてはアート]をコンセプトに年齢・国籍・障害の有無・専門家であるなしを超え、アートを核に地域・場所や領域をつないでいく活動を行なっています。展覧会やイベントなどを開催し、誰もが豊かな人生を楽しむ共生社会の実現を目指しています。

■ 活動内容

(1)主に障害者の作品を紹介する年2～3回企画展示の開催/ (2)展覧会関連フォーラム、ワークショップなどのイベントの開催/ (3)障害者の創作活動の支援 (2017年～とちぎアートサポートセンターTAM事業を栃木県より受託) / (4)創作活動の場の提供 (展示棟、ギャラリー等の貸し出し) / (5)NPO法人の会員向けに活動報告、情報を伝える通信誌「MB通信」の発行/ (6)ミュージアムショップにて全国の福祉施設のグッズや関連書籍などの販売/ (7)ギャラリー&カフェ「M+Cafe」の営業/ (8)障害者の創ったイラストを新たにデザインし製品化の企画/ (9)障害者などの作品を収蔵・保存し、それらの作品の貸出 (水戸美術館、世田谷美術館、栃木県立美術館) と出前美術館の開催 (横浜市ZAIM、栃木市栃木文化会館、那須塩原市旧青木家那須別邸) / (10)学校などに出向き、新たな体験を試みる出前ワークショップの開催/ (11)全国公募入選作品展「なかがわまちアートフォレスト」など館外イベントの開催



写真1 開館20周年記念展「ありのままがあるところ しょうぶ学園」風景

■ 活動の経緯・体制

【活動の経緯】設立のきっかけとなったことの一つは、1999年知的障害者の作品や創作活動を知り、作品が素晴らしいのに社会に届いていない事にショックを受けた事、二つは当時馬頭町（現 那珂川町）の古い小学校が廃校後取り壊される事。それらから障害者たちの作品を紹介する美術館を作ろうと、もうひとつの美術館設立準備会を2000年に立ち上げました。

【運営体制】理事8名監事1名職員6名。

■ 活動の工夫・成果

【活動の工夫】段差が多かったので、スロープを新設し、車椅子の利用者も美術鑑賞を楽しめ、イベント開催時にも参加しやすいよう改修しました。また設営時には、障害者の尊厳を保ちつつ作品の良さを鑑賞者に伝えようと心がけています。【成果】2001年当館の開館当時には障害者全般の作品を紹介する美術館は他になかったが、今は他に美術館もでき、TV等で創作の様子が紹介され、障害者の芸術活動の認知度が増えました。



写真2 2018年 出前ワークショップ(西原小学校)

埼玉県内のおもちゃ図書館をつないで活性化！



■ 団体名・氏名

埼玉県おもちゃ図書館連絡会

■ 基本データ

継続年数	37年間
主な連携先	埼玉県社会福祉協議会等
団体の規模等	加入数19団体

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

埼玉県内のおもちゃ図書館同士、情報を交換し、活動の活性化を目的に、研修会や交流会を実施しています。また、会報を発行し、情報の提供や各館の活動状況を共有し、それぞれの「おもちゃ図書館」が、障害児者や保護者が地域で安心して過ごせる居場所、社会参加の一助となるよう活動しています。

■ 活動内容

おもちゃ図書館は、障害児の遊び場として始まり、親子又は障害者本人のホッとできる居場所となるよう活動しています。埼玉県おもちゃ図書館連絡会では、年1回、交流会を開催し、加入団体の関係者（障害児者、保護者、ボランティア等）が集い、子どもから大人まで幅広い年齢層が楽しみながら様々な体験ができる内容（コンサート、工作、人形劇等々）を企画しています。特に、知的な障害のある参加者が声を出したり動き回ったりすることを制限せず、それぞれのペースで楽しめるよう配慮しています。会場は、1990年～埼玉県障害者交流センターを利用。重度の障害児者と保護者も参加しやすいようです。長年継続しているので、参加者同士顔見知りとなり、違う地域の人とも交流ができると、毎年楽しみにしている人が多くいます。その他、共同で移動おもちゃ図書館を実施し活動の普及に務め、会報「といだより」を発行し、情報提供や各館の状況などを共有しています。



■ 活動の経緯・体制

1983年6月、埼玉県内最初の障害児のためのおもちゃ図書館が発足。1984年、埼玉県社協主催のボランティア活動分野別連絡会「障害児と外に出る活動分野」に参加。1985年埼玉県社協主催ボランティア活動分野別連絡会に「おもちゃ図書館分野」が設けられ、1986年6月「埼玉県おもちゃ図書館連絡会」が9館で発足。2002年までは県社協や市社協が事務局を担っていたが、それ以降は各地の館が事務局を担っています。

■ 活動の工夫・成果

連絡会という組織として活動することで、単独では出来ないこと（交流会、研修会、見学会等）が実施できるのは、大きなメリットです。何より、ちょっとした悩みや迷いも、定例会で共有し、他の館の方法を参考にすることで、刺激を受け、新しいことに挑戦する元気がもらえます。それが、日々のおもちゃ図書館活動に活力を与え、利用者である、障害児者や保護者の居場所、社会参加の機会を増やしていると考えます。





声でお届け！ローカル情報から自然科学、宇宙まで

■ 団体名・氏名

コスモスの会

■ URL

<https://www.library.city.narita.lg.jp/volunteer/transliteration/index.html>

■ 基本データ

継続年数	35年間
主な連携先	成田市立図書館
団体の規模等	6名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

さまざまな障害のある方が、利用しやすい形式で本の内容にアクセスできるよう、録音図書製作を行っています。また、自主製作音声通信の発行を通じて、多岐にわたるホットな話題の発信に取り組んでいます。

■ 活動内容

成田市立図書館の音訳協力者として、録音図書の製作（音訳・編集・校正）を行っています。

製作した録音図書は、成田市立図書館の所蔵資料として市内の障害のある方に提供するだけでなく、国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスを通じて日本全国で利用されています。

ほかにも、会の設立時から「コスモス通信」という自主製作音声通信の製作を行っています。身近な話題や新刊図書の案内等の情報発信を行っており、発行は通算341号を数えました。

以前は地域のフリーペーパー等の内容を中心に、地元のイベントやお店の情報等を発信する「コスモスカわらばん」も発行していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020（令和2）年に通算227号で発行を終了しました。

利用している方から、製作した録音図書や「コスモス通信」で取り上げた記事について、おもしろかった、興味深かった等のお便りをいただくことが嬉しく、活動の励みとなっています。



写真1 自主製作音声通信「コスモス通信」録音の様子

■ 活動の経緯・体制

成田市立図書館で開催された「婦人ボランティア養成講座」を修了した約10名が、1988（昭和63）年に会を立ち上げました。その後、1992（平成4）年、1998（平成10）年、2003（平成15）年の「朗読奉仕者養成講座」修了生も加わり、35年間活動を継続しています。

■ 活動の工夫・成果

自主勉強会や図書館が開催する音訳協力者養成講座への参加を通じて、音訳・校正・編集に係る技術のスキルアップに努めています。

これからも、利用される方のリクエストに沿いながら、全国のネットワークを通じて新しい情報も取り入れ、情報格差の解消に繋げていきたいと思っております。



写真2 録音後の確認作業の様子

地域みんなで楽しめる土曜日の余暇活動


 功労者

■ 団体名・氏名

国立五日制の会

■ URL

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100057305355253>

■ 基本データ

継続年数	31年間					
主な連携先	小学校、公民館、文化ホール等					
団体の規模等	70名					
対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

しょうがいのある人たちが地域で楽しく過ごすことを目的に、共に育み合う仲間として多くの地域の人々と交流できる活動を行っています。生涯学習の一環として、「音楽の広場」「わいわいスポーツ」をメインにし、特別企画で夏の外出（山や海へ）・BBQ企画・春の外出（植物公園や水族館、江の島等）・コンサート企画（地域に開かれた音楽活動）を行っています。

■ 活動内容

本会は、地域で共に学び合い、楽しい場の提供を企画しています。学校五日制導入に伴い、学校が休みとなった土曜日の児童生徒の過ごし方検討から始まり、31年前に国立五日制の会として活動が始まりました。参加者の多くがプール活動を好みスタートしましたが、プールに参加できない人のために、プールと並行して音楽活動を取り入れ「音楽の広場」と名付けました。27年間指導員としてピアニストが務めて継続中です。音を自由に感じ自分なりの表現を打楽器で行う事をメインに行っています。広い体育館を自由に動き回る活動として「わいわいスポーツ」と名付けました。体育教諭が本会のスポーツメニューと指導を長きに渡って手掛けています。コロナ禍でできなかった特別企画として、ようやく今年はBBQを実践し、電車での外出もしました。参加者のほころぶ顔がボランティアの心を熱くさせました。笑顔が増える活動を心がけ邁進しようと家族とボランティアは切磋琢磨し、楽しく企画実施しています。



写真1

音楽の広場

■ 活動の経緯・体制

1992年9月から学校五日制が導入され、休みとなった土曜日の午前中の時間を使い、地域で楽しい活動の場を企画してきました。8月を除いた第2土曜日は「音楽の広場」を第4土曜日は「わいわいスポーツ」を実施し、年に2～3回特別企画を入れています。ボランティアと家族が運営会議で企画し、実践を行っています。活動初期ボランティアが立ち上げた社会福祉法人かいゆうが事務局として協力しています。

■ 活動の工夫・成果

「音楽の広場」「わいわいスポーツ」は、指導者が長年に渡り関わっており、会は円滑な運営をサポートすることに徹し、それぞれの役割分担があるおかげで、長く続けることができています。特別企画の際は、当事者の方の意見を反映して企画しています。「音楽の広場」の拡大版として、夢コンサートを23回続けており、これはプロの演奏と参加型を取り入れた演目となっていて、地域の方々も楽しみに参加してくださっています。



写真2

わいわいスポーツ運動会バージョン

障害者青年教室

【ビートクラブ（東大和市）くぬぎ教室（国分寺市）】

功労者

■ 団体名・氏名

菅田 政志

■ 基本データ

継続年数	13年間
主な連携先	東大和市立中央公民館・国分寺市立並木公民館
団体の規模等	40名

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

東大和市、国分寺市において障害を持つ人の生涯にわたる学習文化活動を支援しています。同年代の健常の若者との交流を図る機会を設け参加者の生活と余暇を豊かにすることを目的とし活動を企画運営しています。

■ 活動内容

音楽講師として下記の活動をしています。

①障がい者青年教室ビートクラブ（東大和市）

「音楽」を中心とした活動（ゲーム・合奏等）をしています。スタッフがヘルパー役にならず、参加者とスタッフがお互いできる事をやるという姿勢を基本とした活動にしてから参加者の「できない」から「やってみる」という気持ちへの変化で、苦手意識が減りました。また1人ずつ家族、仕事、趣味の発表をする事で個人の背景を知る事ができ、関係も親密になっています。絵画、合奏、踊りなど参加者の持ち味を生かした活動を中心に、準備や片付けまで全員で進めています。

②くぬぎ教室（国分寺市）

18歳以上の知的障害がある教室の活動日の音楽を実施する日（令和4年度は全回、令和5年度は5回）に、身体全体を使ってジェスチャーする事、絵を描く事、音楽にのせて言葉で表現する事でお互いに対等で、共に楽しもうという姿勢を大切に活動しています。



写真1

音楽活動時の様子

■ 活動の経緯・体制

東大和市立中央公民館で平成4年から実施している障がい者青年教室「ビートクラブ」に平成22年から音楽演奏者菅田氏が講師として着任し、スタッフが主導となるのではなく、参加者・スタッフが仲間として、できる事をできる人がするという事を基本に活動しています。

国分寺市立並木公民館で昭和51年から実施している「くぬぎ教室」に令和2年から音楽担当講師として着任し様々な手法で楽しく参加する事を目標に活動中です。

■ 活動の工夫・成果

「ビートクラブ」では菅田氏が中心となり、独創的な内容を取り入れ参加者が発言や発表をする活動ができるように、企画運営を行っています。発言が控え目であった参加者も、様々な話をする機会が増え、活動に積極的になってきました。

「くぬぎ教室」では障害の程度が重い参加者が多いが、一人一人の特徴を生かして丁寧に対応しており、表現する事で共に楽しむ姿勢が生まれてきています。



写真2

調理実習時の様子

夢をつかむステージ【POWER&SMILE】

功労者

■ 団体名・氏名

SACミュージカルカンパニー

■ URL

<http://www.sac-musical.com/>

■ 基本データ

継続年数	21年間
主な連携先	特別支援学校、文化芸術団体等
団体の規模等	36名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

シアタートラムを運営する世田谷文化財団の支援を得て提携公演という形式で当劇場にて2007年から2021年まで1年おきにオリジナルミュージカルを計7回上演しました。知的障害者の文化芸術活動を地域の人々に発信するとともに彼らの自己表現力育成の一助となっています。

■ 活動内容

毎月2回3時間程度の活動を基本とし、2年ごとに劇場においてオリジナルミュージカルを上演しています。

障害の程度に応じて演技や歌唱、身体表現活動のサポートを受けながら観客に情熱を伝えようとする努力を継続しています。そして、舞台表現活動を通して知的障害者のQOLの向上を目指しています。また、メンバーの出身校の部活動との定期的な交流を行うことで彼らの卒業後の余暇活動の一環になるように情報を提供しています。



写真1 前回の劇場公演の出演者とスタッフ

■ 活動の経緯・体制

主宰者が2002年都立青島特別支援学校に勤務していた際に卒業生の余暇活動の一環として発足させました。その趣旨に賛同していただいた保護者の皆様の支援と世田谷区および目黒区の地域性と生活環境が本活動を軌道に乗せることができた要因のひとつです。行政、保護者、教員の継続した熱意ある支援と表現者の意欲が20年の活動を支えていると考えます。

■ 活動の工夫・成果

舞台表現のひとつであるインプロ活動（相手の反応に合わせる即興表現）を継続して行うことで人前でも臆せず自己表現する力が育まれています。また、しなやかな腕と力強い脚を目指して胴体を十分動かすトレーニングを行っています。彼らの表現力の限界を設定せず、常に可能性を最大限に追求することで期待されている意識が芽生え、本人が思っている以上の表現力が発揮されます。



写真2 インプロ活動の様子

目白大学におけるオープンカレッジの開催

功労者

■ 団体名・氏名

NPO法人 障害者就業生活支援開発センターGreen Work21

■ URL

https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/houjin/npo_houjin/lis/t/ledger/0004212.html

■ 基本データ

継続年数	19年間
主な連携先	目白大学新宿キャンパス
団体の規模等	約30名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

目白大学に事務局がある特定非営利活動法人障害者就業生活支援開発センターGreenWork21は、知的障害特別支援学校の卒業生を対象としてオープンカレッジ（グリーンワークカレッジ）を2005年より毎年開催しています（コロナ禍2年間を除く）。ここでは、知的障害のある方が企業や福祉作業所等で元気に働くために必要な暮らしの知恵を学んだり、スポーツを体験したりしています。

■ 活動内容

知的障害のある方の学びの場として、目白大学においてオープンカレッジ（グリーンワークカレッジ）を年に2～3回開催しています。テーマとして、「働く人の体育学」、「働く人の栄養学」、「働く人の国際学」などを体系的に継続して扱っています。「働く人の体育学」では目白大学の教員が講師となり、パラリンピックの種目であるポッチャの試合などを行っています。参加者が多い人気の講座です。「働く人の栄養学」では、1つの食品を取りあげ、講師からその栄養素やレシピなどを学び、実際に味わったりしています。「働く人の国際学」では、平和を願う気持ちをもち、多民族国家である中国の多様な伝統文化を学ぶとともに、様々な文化・芸術体験もしています。また、オープンカレッジ（グリーンワークカレッジ）の各講座に目白大学の学生がボランティアとして参加する場をもうけており、知的障害のある方と大学生の交流の機会となっています。



写真1 ボッチャ競技後の集合写真

■ 活動の経緯・体制

大学で「学びたい」という知的障害のある方の願いを受け止め、オープンカレッジ（グリーンワークカレッジ）を始めました。大学教員や専門家と連携を図り、大学の教室や実習室等の施設設備を使い、1回で完結する講座を実施しています。毎回受講したいと思われるような興味深い内容を設定し、楽しく実施することに留意しています。また実施に際しては、大学までの安全な道案内の体制も整えています。

■ 活動の工夫・成果

オープンカレッジ（グリーンワークカレッジ）のご案内を作成する際には、分かりやすく、丁寧な文章の使用を心がけます。また、参加者のご家族にも安心していただくような説明も行っています。毎年の講座は、のべ約30～50名の参加者とスタッフで構成されています。作業所利用者や東京都親の会の本人部会「ゆうあい会」などにも参加を呼びかけ、好評を得ております。



写真2 作品：中国における「切り絵」

プライベートサービス（対面朗読）、 録音図書の作製、朗読会開催、啓発活動等



■ 団体名・氏名

朗読・録音ボランティア「野の会」

■ 基本データ

継続年数	33年間
主な連携先	伊勢原市立図書館
団体の規模等	15名

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

伊勢原市立図書館が開館して間もない頃から年間を通じてプライベートサービス（対面朗読）に従事しているほか、録音図書の作製を行っています。また、視覚障害者を対象とした朗読会の開催や、図書館が主催する「バリアフリー映画会」のサポート、「こどもの読書週間」における一般の人を対象としたアイマスクを付けての対面朗読体験の実施等、啓発活動にも携わっています。

■ 活動内容

朗読・録音ボランティア「野の会」は、主に視覚障害者に向けた多様なサービスの提供をボランティアで行っています。

プライベートサービスでは、図書館に来館した利用者に本やその他書類の対面朗読を実施しています。ただ読み上げるだけでなく、正しく伝えられるよう定期的に勉強会を行い、また相手に寄り添えるよう意識して取り組んでいます。

作製した録音図書は、障害の有無に関わらず、読むことが困難な方に広く貸出しされています。

毎年開催している啓発活動として、朗読会では視覚障害者を対象としていますが、どなたでも参加可能としているため、啓発活動にもつながっています。開催にあたっては合同練習会を複数回実施し、本番を迎えています。対面朗読体験では、アイマスクを着用した子どもに読み聞かせを行い、「バリアフリー映画会」では、上映作品の選定補助のほか、障害のある方々が安心して参加できるように会場内でサポートしています。



■ 活動の経緯・体制

平成2年度に伊勢原市立図書館が開催した朗読・録音ボランティア養成講座受講者を中心に、図書館における視覚障害者サービスを目的として設立されました。

現在は、会員数15名で活動しています。プライベートサービス（対面朗読）は、利用者の方からの希望を聴取したうえで毎月3回程度実施しており、会員が交代で担当しています。

■ 活動の工夫・成果

図書館職員では対応できない、一人一人の障害の程度や要望に添った対応をしています。本人が適切なサービスを受けられるようハード面はもちろんのこと、密なコミュニケーションを心がけソフト面からもサポートできるよう心がけています。継続してサポートを受ける利用者の方が多いことが、その成果の表れだと感じています。



写真2 作製した録音図書（一部）



夢は必ずかなうもの「明るく 元気に 自立しようぜ！」

■ 団体名・氏名

知的障害者楽団ラブバンド

■ 基本データ

継続年数	28年間
主な連携先	行政、スポーツ団体、ボランティア団体
団体の規模等	25名

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

「明るく 元気に 自立しようぜ！」「夢は必ずかなうもの」の2つをテーマに、知的障害のある人とボランティア、保護者などでバンド活動を行っています。これまで富山県内のみならず、県外、海外などで250回以上の公演を行いました。音楽をとおして様々な体験をし、「できた！」という喜びを積み重ねることで、一人ひとりの自信や成長につながっています。

■ 活動内容

「夢は必ずかなうもの」のテーマのもと、全員で共に夢と目標を持ち続け、ひとつの夢や目標が達成したら、また次の夢を持って活動しています。月2回のペースで練習しており、30曲以上のレパートリーとメンバーが作詞を手掛けたオリジナル曲「夢に向かって」があります。県内外を問わず、これまで250回以上の公演実績があり、結成10周年には韓国で初の海外公演、結成15周年にはハワイでの公演を成功させるなど、夢をかなえてきました。

楽しくひたむきに音楽に親しむ姿にファンも多く、音楽を通し観客と交流することによって、障害のあるなしに関わらず多くの人に「やればできる、夢はかなう」という勇気を与えています。知的障害のある人の生きがい、学び、交流の場でもあり、これからは、音楽が好きな人、演奏を見て自分もやってみたくと思った人など、新しいメンバーを増やし、音楽活動が毎日の励みや楽しみとなるよう、活動を続けていきたいです。



写真1 結成10周年、初の海外公演（韓国）

■ 活動の経緯・体制

1995年、富山大学附属養護学校（現・富山大学教育学部特別支援学校）の卒業生を中心に結成しました。現在は富山市内の知的障害者が中心となって活動し、その活動を家族やボランティアが支えています。県内の障害関係機関やボランティア団体等とも連携し、障害理解啓発等のイベントや大会への出演、障害者支援施設等での演奏も多くあります。

■ 活動の工夫・成果

メンバーのほとんどは楽譜が読めませんが、耳で覚えて楽器を弾いています。ボランティアは、参加する知的障害者を一人の自立した大人として接し、親の手助けをなるべく減らすことで、少しずつ自分でできることを増やしていきました。叱らない、押しつけない、一緒に楽しむという練習で、「できた！」という喜びを積み重ねる事によって、自信や成長につながっています。



写真2 県内の様々な催しにも出演

聴覚に障害のある人を手話通訳者、要約筆記者として支援

功労者

■ 団体名・氏名

松平 洋子

■ 基本データ

継続年数	24年間
主な連携先	白山市聴覚障害者協会
団体の規模等	—

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

手話通訳者と要約筆記者の両資格を所持し、ろう者、難聴者と幅広く聴覚障害者の支援を行っています。コミュニケーション手段が違うろう者、難聴者が互いに交流できるよう支援し、その結果交流の輪が広がりました。聞こえる人の場合、自然に入手できる生活情報を、聴覚障害者との日々の関わりの中で手話等で情報提供し、聴覚障害者の社会参加促進と音声による権利擁護にもつなげています。

■ 活動内容

平成10年から手話サークルや要約筆記サークルなどのボランティアサークルに所属し、市聴覚障害者協会が主催する映画上映会や講演会の運営協力をするなど取り組みを行ってきました。

平成16年には手話通訳、平成15年要約筆記の通訳技術を習得したことにより、白山市に登録し、手話、要約筆記により通訳を行い、スポーツや、手芸、園芸等の文化活動の様々な場面で情報保障を行うなど活動の幅がさらに広がり、地元図書館でも聞こえない子どもを対象とした手話での絵本の読み聞かせスタッフとしても活動しています。平成23年からは市聴覚障害者生活相談支援員として、令和3年10月設立の聴覚障害者対象の地域活動支援センター「あさがおハウス」のボランティアスタッフとして日々の活動の情報保障を行うなど精力的に活動しています。

人材育成のため、手話奉仕員養成講座の手話通訳、要約筆記者養成講座講師を長年担い、支援する側のすそ野を広げています。



写真1 「あさがおハウス」での活動の様子

■ 活動の経緯・体制

手話サークルや要約筆記サークルなどのボランティアサークルに所属し、日々活動されています。令和3年10月に設立された聴覚障害者のための地域活動支援センター「あさがおハウス」においてもボランティア登録を行い、日々、活動の情報保障を行っています。その他多数活動。

■ 活動の工夫・成果

突発性難聴や高齢化で、後天的に耳が聞こえにくくなった人は、手話を使えない人が多くを占めています。その方々を気軽に支援する方法である「筆談」でのコミュニケーションを推奨し、書いて伝える筆談講座の講師を担当しています。講座では、筆談のコツや簡単な手話も伝えるなどし、受講者が楽しく学べるよう指導し、受講者がやりがいをもって、ボランティアとして支援できるよう励んでいます。



写真2 手話による情報提供の様子

あとリエ風 「アート教室」


 功労者

■ 団体名・氏名

あとリエ風

■ 基本データ

継続年数	13年間
主な連携先	福井県障がい者芸術文化活動支援センターふくみなーと
団体の規模等	7名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

福井県内の特別支援学校等の卒業生を中心に、文化芸術分野の余暇活動として月に1回の「アート教室」や、福井市美術館にて年1回の作品展を開催しています。毎月継続して活動することにより、地域の障がい理解啓発にも寄与し、また作品展の開催により参加者の自己肯定感や自己有用感を高めることにもつながっています。

■ 活動内容

特別支援学校等の児童生徒および卒業生を中心に、会員の障がいに合った余暇活動として、福井県社会福祉センターにて毎月第3日曜日に2時間程度「アート教室」を開催しています。活動内容としては作品制作、作品鑑賞を行っています。毎年1回福井市美術館で行っている作品展には、児童から40代まで25人が出品した絵画や造形、書道など100点以上が展示されています。2010年の開設から9年間はスケッチ旅行にも出かけ、ゆったりとした時間の中で自らの描きたい世界を表現することを支援してきました。

作品展や常設展の開催は、地域の障がい理解の啓発にも寄与しています。今後も継続した活動を行うことで、当事者だけでなく家族や地域を含めた障がい理解が推進されることが期待できます。また、卒業後を見据えた生涯学習や余暇活動につながることを、在学時から見つけていこうとする推進活動にも寄与しています。



写真1 あとリエ風 アート教室の様子

■ 活動の経緯・体制

障がいのある人たちに気軽に創作してもらおう場として2010年に設立しました。翌年の2011年度からは月1回の「アート教室」の活動成果を発表する場として、福井市で作品展を毎年1回開催しています。また、越前町の施設では常設展示として、美術館喫茶室二ホ（福井県立美術館併設）では定期的に取り上げて展示しています。現在は伊藤代表とボランティアで活動を支えています。

■ 活動の工夫・成果

開設以来、教室の参加者は年々増え、文化芸術活動の場として定着しています。教室生の年齢層も小学校低学年から40歳代までと幅広く、活動の輪を広げています。当事者の生きがいや仲間との交流につながるよう、月1回の教室は継続して行っています。絵だけではなく、紙粘土や牛乳パックを材料にした立体作品にもチャレンジするなど個に応じて幅広く自己表現ができるよう工夫しています。



写真2 あとリエ風作品展2023（福井市美術館）

いつでも！気軽に！楽しく！サッカー

功労者

■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人静岡FIDサッカー連盟

■ URL

<http://www.shfa.jp/>

■ 基本データ

継続年数	24年間
主な連携先	地元パラフットボールチーム、学校等
団体の規模等	46名（事務局）
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

障害のある人たちの社会参加促進に寄与することを目的に、「知的障害者のサッカー競技普及に関する事業」「知的障害者の選手、チーム、指導者、レフリーの育成に関する事業」「国際大会を含む障害者のサッカー大会の開催、運営に関する事業」「障害者サッカーの広報及び他団体との連携に関する事業」「スポーツ施設の管理、運営に関する事業」を一体的に行っています。

■ 活動内容

小学生サッカー教室、中学生サッカー教室、高校生や卒業生を対象にした教室を開催し、全県では、小学生から社会人まで600人程の人たちが参加しています。

また、高等部生徒が参加するサッカー大会の運営も行っています。卒業生や高等部生徒の中には、全国大会等に出場する選手もいます。

2011年からは韓国との交流試合を開始しました。2017年には台湾との交流も開始し、サッカーをととした国際交流にも積極的です。

2023年4月には、地元のサッカーチーム「清水工スパルス」とともに、障害の有無に関係なく誰もがスポーツに親しむ共生社会実現に近づけるため、県内2箇所ですクールを開始しました。

さらに、アンプティサッカーやデフサッカー、電動車椅子サッカー等の他団体と連携した取組をおこない、知的障害のある人だけでなく、生涯スポーツとして様々な障害のある人たちがサッカーをする機会をつくっています。



写真1 多様な団体と連携したサッカー教室

■ 活動の経緯・体制

1999年より静岡県サッカー協会ハンディキャップ委員会として、障害者のサッカー競技の普及と振興を図ることをねらい、活動を開始しました。2015年には特定非営利活動法人静岡県FIDサッカー連盟となり、現在に至ります。県内各地に支部を置き、在学から卒業生までを対象とし、静岡県下5箇所ですクール教室を実施しています。知的障害のある参加者は、小学生から社会人まで含め600人におよんでいます。

■ 活動の工夫・成果

知的障害等のある選手等に対する指導者の指導技術向上に努め、毎月様々な障害種のサッカー団体とスタッフの障害理解研修を実施しています。

各地域で行われるサッカー教室への参加者が多いことや、最近では2009年、2019年、2023年に全国知的障害者サッカー選手権で優勝していることは、成果です。

参加者や団体同士の地域でのつながり、全国的、国際的なつながりをつくっていることは本連盟の特長です。



写真2 小学生サッカー教室



びわ湖若鮎駅伝大会（障害者駅伝大会）

■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人YASUほほえみクラブ

■ URL

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~hohoemi-club/>

■ 基本データ

継続年数	20年間						
主な連携先	スポーツ推進委員協議会、陸上競技協会等						
団体の規模等	1014名						
対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複	
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他	

活動の概要

幼児からシニア層まで「スポーツを通じて、すべての人々が幸福で、豊かな生活を営むことができる社会」を目指し、行政・関係団体・スポーツ少年団等と連携し、参加しやすい枠組み作りに取り組んでいます。また平成25年から「びわ湖若鮎駅伝大会」を継続して開催。さらに「なかよし交流館」を拠点に障害（児）者のスポーツ機会増や余暇支援のための様々な事業等を行っています。

■ 活動内容

びわ湖若鮎駅伝大会は、滋賀県野洲市をはじめ近隣の市・町や県内外の障害のある方がそれぞれの目標を持ち、いきいきと地域で生活できるよう、スポーツの振興と地域の活性化に寄与することを目的に、2013年度から毎年12月に開催されている駅伝大会です。これまで、滋賀県の各特別支援学校、作業所をはじめ、京都府、岐阜県からの出場もあり、参加者の裾野を広げるために種目の充実化を図り、大会の輪が広がりつつあります。

またYASUほほえみクラブでは、駅伝大会以外にも総合型地域スポーツクラブとして、地域の障害者スポーツ施設「野洲市なかよし交流館」の指定管理を受託して、体操、卓球、バドミントン教室等、様々な余暇支援活動等を行っています。



写真1 「第1回びわ湖若鮎駅伝大会」スタート地点の様子

■ 活動の経緯・体制

平成24年に障害者NPO法人理事長より同大会をYASUほほえみクラブで主催できないか、との話からスタートしました。野洲市陸上競技協会や野洲市スポーツ推進委員協議会、同市の総合型地域スポーツクラブの協力のもと、実行委員会形式で教員や市スポーツ担当も入る形で大会準備を進めて、第1回大会を平成25年に開催。地域団体協賛や民生児童委員、健康推進委員の協力と地元JAの食材提供で昼食のカレー提供なども行いました。

■ 活動の工夫・成果

地元作業所からの出場があり、この作業所とは別の障がい者スポーツ事業でも繋がりががあります。また駅伝大会で開催しているミニマラソン（個人参加部門）では、毎年出場を心待ちにしておられる方が、東京オリンピック2020の地元聖火ランナーとして参加。その話を大会開催時に楽しく話していただきました。このようにリピーターも徐々に増えてきていて、大会運営者と参加者の距離が比較的近い大会となっています。



写真2 「第7回びわ湖若鮎駅伝大会」ゴールの様子



丹後でアートと福祉をつなぐ「ふなや吉兵衛と仲間たち」

■ 団体名・氏名

吉岡 光義

■ 基本データ

継続年数	13年間
主な連携先	かがやきの杜、丹後で福祉とアートをつなぐ実行委員会
団体の規模等	—
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

社会福祉法人久美の浜福祉会「かがやきの杜あおぞら」での絵画講師、障害者の作品展示の企画・実施のほか、障害の有無や福祉の分野に捉われず、まちじゅうを美術館にする「TANGOまるっぼ美術館」実現のため、丹後で福祉とアートをつなぐ実行委員会代表として日夜活動を行っています。

■ 活動内容

個人の活動としては、自宅での無償の絵画教室や、社会福祉法人久美の浜福祉会「かがやきの杜」の施設で月に1回の絵画講師をしています。彼らの創作を信じて、見守る指導法をとっています。自分の好きな画材で好きなように、自由に描いてもらい、彼らが困ってSOSを発してきたときに助け、創作の90分が楽しい時間になるよう努めています。また、彼らの作品が展示される機会がなかったことから、自身の個展会場を拡大し、久美浜町稲葉本家・蔵美術館やギャラリーきりん舎に毎年彼らとの展覧会を開催し、創作指導、展示等を通じて、彼らの生涯学習の充実に努めています。また、久美の浜福祉会、みねやま福祉会、あみの福祉会とともに、障害の有無や福祉分野に捉われず、地域住民が日常的に訪れる場所等、まちじゅうを美術館にする「TANGOまるっぼ美術館」実現の為、「丹後でアートをつなぐ実行委員会」を設立し、地域を巻き込み障害者アートの認知度アップや理解を深める活動を行っています。



写真1 かがやきの杜での活動の様子

■ 活動の経緯・体制

久美浜町長退任後、独学で絵画を始め、平成22年から講師依頼を受けた施設で月1回の絵画講師を始めました。自身の個展会場を拡大し、久美浜町稲葉本家・蔵美術館やギャラリーきりん舎に毎年彼らの作品との展覧会を開催しています。京都府主催のCONNECT展にて活動を紹介されたことをきっかけに、地元の3つの社会福祉法人と共に「丹後でアートをつなぐ実行委員会」を設立し、令和4年度から作品展を開催しています。

■ 活動の工夫・成果

事業所内の創作だけでなく、障害者の作品を自身の個展に併せて発表することで、通所されている方のご家族や地域の方々に彼らの創作活動やその表現を伝えられる機会ができました。それにより、障害者の方に笑顔が生まれ本人のモチベーションが上がっています。またTANGOまるっぼ美術館の構想により、市内から丹後地域全体と活動が広がり、福祉事業所同士の繋がりや思いに賛同し活動してくれるまるっぼサポーターが生まれました。



写真2 まるっぼ美術館

続けることは 想いを育み 明日を拓く ～みんなと共に歩んだ50年～



■ 団体名・氏名

宮津障害者青年学級運営委員会

■ URL

<https://www.city.miyazu.kyoto.jp/soshiki/17/1426.html>

■ 基本データ

継続年数	50年間				
主な連携先	宮津市教育委員会、よさのうみ福祉会等				
団体の規模等	50名				
対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱 重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発 その他

活動の概要

昭和48年の開設から50年にわたり、障害のある青年・成人にスポーツや調理、陶芸、手芸等の学習の場を提供するとともに、情報交換や仲間づくり等を行う機会を設けることによって社会参加を促すことを目的に取り組んでいます。他にもサロンや遠足、クリスマス会等の開催や、京都府北部青年学級交流会の実施により近隣市町の青年学級との交流も深めています。

■ 活動内容

- 青年学級 月1回実施（第4日曜日）
軽スポーツ、調理など
- 成人教室（月2回第2・4土曜日に実施）
生け花、手芸、絵手紙、パッチワーク、お茶、
工芸、編み物、パッチワーク
（陶芸は、月1回第2土曜日に実施）
- サロン ※現在は休止中
- 共通事業
 - 遠足 6月の日曜日に実施
 - 京都府北部青年学級交流会
会場は宮津市、舞鶴市、与謝野町、綾部市、
福知山市の順に、秋の日曜日に実施
 - 宮津青年学級交流会（クリスマス会）
宮津天橋高校や海洋高校、ボランティア団体
を含めても参加し、12月の日曜日に実施
- その他
運営委員会を年4回開催。また、活動時には
会話を充実させるとともに個々の学習や技能
の向上に努めています。



写真1 クリスマス会での交流の様子

■ 活動の経緯・体制

「学校を卒業しても話し合える友達が欲しい」という願いから出発し、個々の生活のニーズに合った教室をつくり活動を始めました。出席しやすい日程や内容に変化させながら自分のしたいことが選択できるように工夫し、現在に至っています。宮津市教育委員会社会教育課に障害者教育担当者が配置されて運営委員会が定例化され、体制が確立されました。また1982年のクリスマス会からは、地域の高校や団体との交流も毎年継続しています。

■ 活動の工夫・成果

活動場所の確保や教室指導者への謝礼などの宮津市の行政上の協力や、障害者支援ボランティアを募集して協力者の確保に努めました。また、活動日を共同作業所の就労日以外に設定するなど、連携に努めています。50年の間には学級生それぞれが学習を積み重ね、個々の生活を豊かにする成長が見られました。また、仲間の思いが気兼ねなく気持ちを開放できる場所になっています。



写真2 スポーツ「カロム」を楽しむ

一人ひとりの多様性を受容する、インクルーシブダンス

功労者

■ 団体名・氏名

Dance Assemble アマカマ・ドウ

■ 基本データ

継続年数	18年間
主な連携先	—
団体の規模等	18名

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

大阪府泉州地域にて、月に2～3回の頻度でダンス活動を行っています。具体的なダンス活動内容は、参加者の自発性や創造性を尊重した即興ダンスと創作ダンスを主としています。地域・教育・福祉・医療等の講演会や行事等にて参加発表も行っています。

■ 活動内容

2005年より大阪府泉佐野市にて活動を開始し、現在は泉州地域にて月2～3回（1回120分）の活動をしています。対象は知的障害者やきょうだいなどの幼児・児童等です。運動機会を確保し、健康の維持増進をはじめ、生涯を通した心身の成長と、参加者の居場所の1つとなることを目的としています。ダンスにおける技術習得ではなく、個々の表現を尊重し、他者との動きを介したコミュニケーションを重視した、即興や創作ダンスを行っています。例えば、「立つ」「歩く」といった日常生活の動きを用いて即興や創作を行います。個々の歩きたい方向へ、それぞれの心地良い速さで歩き、止まりたい時は止まり、動きたくなったらまた歩きます。特別な動きでなくとも、それぞれの動きに個性が表現されているため、「自発性」や「自主性」を重視した活動を行っています。



写真1 神戸女学院大学の大学祭にて

■ 活動の経緯・体制

特別支援学校卒業後において、大好きなダンス活動を行う場を設けたいという保護者の想いによって立ち上げられました。知的障害者6名と地域の幼児・児童4名で活動をしています。運営は保護者が行い、ダンス指導はダンス・セラピストの資格を持ち、アダプテッドスポーツを専門とする教員らで行っています。障害の有無や性別・年齢を超えた、多様性を受容するインクルーシブなダンスに積極的に取り組んでいます。

■ 活動の工夫・成果

活動の工夫として最も大切にしている点は、指導者による振付は極力行わないことです。参加者自らから生まれる動きを尊重しています。また、障害の有無や年齢、性別を超えた取組みとして、現在は地域の幼児・児童らとも踊り、地域・教育・福祉等の連携をはかった講演会や行事等へ積極的に参加発表しています。それらは参加者の活動に対するモチベーション向上にも繋がっています。



写真2 インクルーシブダンス活動



卒後の生きがいとなる学びの場「仲間づくりの教室」

■ 団体名・氏名

仲間づくりの教室

■ URL

<https://www.city-osaka-ikuseikai.or.jp/kikanshi.php>

■ 基本データ

継続年数	46年間
主な連携先	大阪市、支援学校、大阪市手をつなぐ育成会など
団体の規模等	173名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

仲間づくりの教室は1977年（昭和52年）より、大阪市委託事業「障がい者交流学习事業」として始まりまし。現在では参加者を8グループに分け、開講式・閉講式含めて年間21日開催しています。教室の内容に応じて府内支援学校教員等の指導員の協力のもと、創作・運動の教室を実施しています。

■ 活動内容

仲間づくりの教室は、大阪市内に在住あるいは在勤の18歳以上の知的障がいのある人に余暇活動や生涯学習の機会の提供をしています。現在では147名の受講生が参加しています。

楽しく体を動かす軽スポーツ、器楽演奏を取り入れた音楽、花卉に触れながら自己表現をする生け花など、季節に応じたプログラムを提供しています。

また、受講生どうしの繋がりも強く、学校卒業後から継続している受講生も多くいます。現行では受講生の年齢も18歳から68歳まで幅広くなっています。指導員については現役の教員や長く携わっている方が多く、受講者と指導員がお互いをよく知っている関係もあり、受講生も安心して通うことが出来ています。

指導員の年齢層も多岐に渡っていることから、指導員は教室運営での相互交流を通じ、指導技術の向上を図るようにしています。



写真1 音楽（太鼓づくりと演奏）

■ 活動の経緯・体制

1977年（昭和52年）より、大阪市委託事業「障がい者交流学习事業」として実施されたのが始まりです。

現在では受講生147名を約20名規模の8グループに分け、第1と第3の日曜日に開講しています。19名いる指導員は、毎回6～8名で教室を担っています。年に数回は支援学校の体育館を利用したり、障がい者スポーツセンターのスタッフ派遣をしてもらったりするなど、多くの関係機関の協力を得て開催をしています。

■ 活動の工夫・成果

近年では受講生の年齢層も広がっていることから、同年代の受講生でグループを構成するように配慮をしています。指導の方法も年齢層に対応するように工夫をしています。また、受講生への開催等の案内についても、「わかりやすい言葉」を利用する等、丁寧な情報提供に努めています。



写真2 受講生の成人式



手話をとおして切れ目のない交流を続け、なんでも支援を…

■ 団体名・氏名

手話サークルやまびこ

■ 基本データ

継続年数	38年間
主な連携先	社会福祉協議会、教育委員会
団体の規模等	15名

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

定期的な学習会およびサークル活動をとおして、聴覚障害への理解を深めるとともに、手話通訳の技術向上、聴覚障害者の生活支援（なんでも会）、ボランティア連絡協議会を通じたボランティアグループの交流、小学校での体験福祉活動や、神崎郡内の聴覚障害者が学ぶ身体障害者社会学級「播磨西くすの木学級」における企画・立案および手話通訳活動などを実施。

■ 活動内容

38年間の長きにわたり、聴覚障害のある方の生活支援に尽力し、定期的な学習会も重ね、さまざまなイベントで手話通訳をしています。聴覚障害のある方の日常生活に寄り添った活動として、学習会を定期的に行ったり、年賀状の送付を行ったりするなど聴覚障害のある方との切れ目のない交流をするとともに、「なんでも会」と称して聴覚障害のある方の生活全般の困ったことを支援する会を設けるなど工夫をこらしています。これらに加えて、町内だけでなく郡内の手話サークル機関とも連携し、「播磨西くすの木学級」では、聴覚障害のある方の学習やスポーツ、文化の体験活動を支援したり、町内の各種人権講演会などで手話通訳をしたり、子ども対象の講座などをとおして啓発したりと広く尽力しています。この他にも、生活全般を支援することにも力を入れており、手話をとおして障害のある方との切れ目のない交流を続けています。



写真1 市川町人権文化推進実践発表会にて手話通訳

■ 活動の経緯・体制

市川町社会福祉協議会のボランティア連絡協議会登録グループとして活動する中で、手話通訳のみならず、聴覚障害のある人の自立に向け、生活全般を支援する体制をとるとともに、フードバンクはりまと市川町が実施する食糧寄付の呼びかけと受付にも積極的に参加しています。

■ 活動の工夫・成果

聴覚障害のある方の日常生活に寄り添った活動に努め、長年にわたり一人一人と親身に関わり、毎週の学習会で手話技術の向上にも努めています。

また、障害のある方も高齢になる中で、対面でのあたたかな交流はもちろんのこと、手紙やFAX、メールなどを使いこなしながら意思疎通をはかり、長年の付き合いからよりお互いを信頼した人間関係のもとで支援にあたっています。



写真2 播磨西くすの木学級にて手話通訳

聴覚障害者に寄り添う助け舟『要約筆記』を続けて…

功労者

■ 団体名・氏名

要約筆記ボランティアサークル③かんざき

■ 基本データ

継続年数	24年間
主な連携先	社会福祉協議会、教育委員会
団体の規模等	18名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

サークル学習会をとおして要約筆記の技術の向上、聴覚障害者の生活支援、神崎郡内の聴覚障害者が学ぶ身体障害者社会学級「播磨西くすの木学級」における企画・立案および要約筆記通訳活動をするほかに、「サマーボランティア1日入門」（福崎町社会福祉協議会）などをとおして、要約筆記の魅力発信や障害者理解の積極的な普及啓発を実施。

■ 活動内容

24年間の長きにわたり、献身的に聴覚障害のある方のコミュニケーションの促進に貢献し、郡内の「播磨西くすの木学級」での要約筆記通訳活動や要約筆記奉仕員養成講座を中心に活動し、定期的なサークルの学習会も月に2～3回市川町で実施しています。年を重ねてから耳が不自由になり手話が分からない方もたくさんおられるので、日常会話やさまざまな場面での助け舟となる要約筆記をとおして、人と人をつなぐ役割を果たし、聴覚障害のある方が豊かな人生を送ることができるよう、その支援活動の普及に努めています。特に、郡内の「播磨西くすの木学級」においては、企画・運営から携わり、要約筆記通訳活動をしています。

その他にも、要約筆記奉仕員養成講座では、聴覚障害への理解を深めるとともに文字を書いて話の要点を伝える活動に尽力し、郡内全ての社会福祉協議会と連携し聴覚障害の方に寄り添った視点で講座を実施しています。



写真1 播磨西くすの木学級にて要約筆記通訳(OHC)

■ 活動の経緯・体制

平成11年に公益財団法人兵庫県身体障害者福祉協会ならびに兵庫県主催の郡内各町社会福祉協議会共催で行われた「要約筆記奉仕員養成講座」の受講者らが協力して郡内で初めての要約筆記サークルとして結成され活動を開始しました。当初から福崎町のボランティアセンターに登録されています。現在の会員の過半数が市川町民であり、活動の拠点が市川町になっています。

■ 活動の工夫・成果

全体に対する要約筆記通訳の場合は、スクリーンに書いた文字をOHC（オーバーヘッドカメラ）で映写したり、ホワイトボードを使用したりしており、個人に対する場合はノートテイクを利用しています。

手話は分からないけれど、加齢や病気などで中途失聴や難聴になった方などの困りごとに寄り添い、その支援の輪が広がるよう、今後も努めていきます。



写真2 ノートテイクによる要約筆記通訳

障害者陸上競技チーム「チーム・ホエール」

功労者

■ 団体名・氏名

チーム・ホエール

■ 基本データ

継続年数	11年間
主な連携先	行政、NPO法人ハトぼっぼ
団体の規模等	約30名

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

障害のある方とその保護者を対象に、マラソン大会への参加やダイエットなどいろいろな興味から始まった走る活動が、それぞれの特性を活かせるよう陸上競技全般に活動を広げた。さらに、専門性を持った指導者が伝えることで、県大会や全国大会に出場するなどの成果をあげている。またこの活動が年齢や障害種別を超えた交流を育み、参加者の余暇活動にも広がりを見せている。

■ 活動内容

「体を動かしたい」「大会に出てみたい」「良い順位でゴールしたい」等様々な思いを持った障害者とその保護者たちが参加しています。

特徴は、目標を持って、競技に参加していることです。当初は健常者に混じり駅伝やマラソン大会等、長距離ロードレースにも参加していましたが、2年目からはそれぞれの特性をもっと活かせるように、選択肢の多い陸上競技全般に活動を広げました。この活動から県の障害者スポーツ大会や地方の陸上競技大会にも参加を始め、2015年に開催された「紀の国わかやま大会」で当チームから初めての代表選手を出すこともできました。

陸上競技に専門性を持つ指導者が伝えることで、同じ目標やあこがれを持ち、結果を喜び合う中で仲間づくりにも繋がっています。更にこの繋がりが、年齢や障害種別を超えて、映画鑑賞等の余暇活動にも広がっています。引き続き、目標や自己記録への挑戦等切磋琢磨する中で、成長を実感できる取組みを続けてまいります。



写真1 早朝、これから和歌山県大会に向かいます・・・

■ 活動の経緯・体制

2012年に行われたハーフマラソン大会に出るため、専門のコーチが欲しいと依頼され取り組み始めたチームです。現在は事務局員1名と専任コーチ1名が、計画と指導にあたり、作業所職員や学校教員、保護者等からのサポートを受けています。

また、器具の購入などは、「NPO法人ハトぼっぼ」からの援助も受けて活動しています。

■ 活動の工夫・成果

地域には競技を行える場所はなく、広場等を活用した練習の工夫も必要です。そのため競技へのモチベーションを保つことができるよう、ロードレースへの参加も積極的に行っています。参加者みんなが、ご家族と一緒に確認したり、自身の振り返りができるよう、保護者達が撮影した写真や動画を共有したり、練習中のコーチからの指示も伝えやすくするため、グループLINEを活用しています。



写真2 競技場はないですが、青空のもと海の近くで気持ちよく練習しています。



表現活動応援プログラム

■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人 コミュニティリー
ダーひゅーるぽん

■ URL

<http://www.hullpong.jp/>

■ 基本データ

継続年数	22年間					
主な連携先	社会教育団体、文化芸術団体等					
団体の規模等	30名（うち役員6名）					
対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

広島市内の企業等と協働で障害のある人の公募芸術作品展「アート・ルネッサンス」を主催し、この活動から障害のある人の表現活動を支援するためのセミナーやサポーターの育成、ネットワークへと発展させました。2014年より「（障害者）アートサポートセンター」の運営を行い、障害者芸術文化活動の情報発信、人材育成、創作活動等の総合的な支援を行っています。

■ 活動内容

障害者の文化芸術活動の支援を中心に、子どもたちの育ちの支援や、障害のある人の社会参加の支援を行いながら、彼ら、地域、青少年とともに幸せあふれる社会づくりを目指した活動を行ってきました。2014年から厚生労働省の「障害者芸術活動支援モデル事業」の指定を受け、障害者芸術文化活動の推進、芸術家の育成を図ることを目的として設立された「アートサポートセンター」の運営を行い（2016年より広島県からの受託事業）、障害者芸術文化活動の情報発信、人材育成、創作活動等の総合的な支援を行っています。こうした活動を通じて、アートで街を楽しく幸せにするだけでなく、障害のある人のアートが持つ魅力、価値を広く社会に広めるとともに、アーティストと社会がつながる社会参画の場をつくり、現場で制作するアーティストやサポーター同士のつながりを広げることにより、アーティストやサポーターの表現活動を広げ、高めるなど様々な波及効果が生まれています。



写真1 障害者アートの公募展「アート・ルネッサンス」

■ 活動の経緯・体制

子どもたちの育ちや発達の支援に加え、障害者の表現活動の支援を行う施設の運営と、彼らのアートを使ったまちづくり活動を、大学、企業等と連携して展開してきました。「アートサポートセンター」の運営により、障害者芸術文化活動の推進やアーティストの支援や育成をさらに加速させています。大学教授、弁護士等で委員を構成し、民間企業や各種団体、行政など多様な主体と連携・協働しながら活動を推進しています。

■ 活動の工夫・成果

障害者のアート活動を個別最適に伴走支援する支援者を「アートサポーター」と位置づけ、これらのサポーターを増やし、つなげていくための場づくりや新たな学びの場づくりの機会を広げるなど、サポーターの育成に力を入れるように工夫しています。障害者アートの公募展「アート・ルネッサンス」は、全国各地からの応募や、10日間で千人以上の来場者があるなど、全国規模の展覧会となってきました。



写真2 創作ワークショップ



朗読ボランティアを50年 そしてこれからも

■ 団体名・氏名

三次朗読奉仕者友の会

■ 基本データ

継続年数	46年間
主な連携先	社会教育関係団体、学校、図書館等
団体の規模等	20名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

視覚障害者への情報保障として、市の広報誌等の朗読テープ・CDの作成を中心に活動しています。また、視覚障害者の社会参画を目的とした交流機会の企画や、系統的な活動とするための朗読ボランティア養成講座の実施、小学校等への出前講座等も精力的・継続的に行っています。

■ 活動内容

視覚障害者への情報保障として、市の広報誌、市議会の広報誌、社協広報誌、身障障害者協会広報誌の朗読テープ・CDの作成を定期的に行うほか、視覚障害者の方からの要望に応じて、新聞や書籍の朗読テープ・CDの作成も行っており、作成した成果物は利用者だけでなく三次市立図書館にも提供しています。

また、視覚障害者の方の社会参画を目的に、音楽鑑賞会の企画やハイキングサポートを定期的実施しています。

さらに、朗読ボランティアの活動を普及するため、朗読ボランティア養成講座を実施するほか、市内小学校や三次市社会福祉協議会と連携・協働し、年間を通じて小学校への訪問による啓発活動や、毎年、社会福祉協議会が開催する福祉体験学習（主に一般・高校生）の講師や支援を継続して行っています。



写真1 養成講座実施

■ 活動の経緯・体制

「目の不自由な方のためにお手伝いをしたい」という初志のもと、視覚障害者への情報保障として指定図書朗読テープを広島点字図書館へ納める活動から始まりました。現在は市や議会の広報誌等の朗読テープ・CDの作成を活動の中心とし、利用者の要望にも柔軟に対応しています。また、会員の勉強会や企画などの活動も行っており、各種イベント等からの講師依頼や学校からの活動支援に係る連絡や調整も行っています。

■ 活動の工夫・成果

障害者フライングディスク大会に、ボランティアスタッフとして毎年参加し、障害者支援者のネットワークの拡大を行っています。広報誌の朗読については、機械による音声サービスだけでは情報が届きにくい視覚障害者に対して、情報の伝わりやすさを考え、再構成する工夫をしています。朗読ボランティアを系統的に長期間実施することで、地域の障害者の生涯学習支援の基盤となっています。



写真2 記念誌発行（4回）



神辺さくらの会

■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人神辺育成会

■ 基本データ

継続年数	29年間
主な連携先	知的障害者関係団体、障害福祉サービス事業所等
団体の規模等	143名

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

神辺育成会は、1994年に神辺町内の6つの団体が一つにまとまり結成されました。障害のある人の自立と社会参加を支援し、本人や親・賛同者（近隣の福祉施設職員等）たちが、安心して豊かに暮らせる地域づくりを目指して活動している団体です。本人たちが主体で、本人たちがやりたいと思う活動を支えることができるように、様々な工夫を重ねながら取り組んでいます。

■ 活動内容

神辺さくらの会は、当初（1994年）知的障害者（児）が支援者の援助を受けて余暇活動を行っていました。支援者が主に活動計画を立て本人に参加してもらう形が多かったのですが、約19年前からは、「自分たちの活動は自分たちで決めます」という思いを持ち行動に移しています。「できないところは助けてください」とヘルプができるようになってきました。毎年近隣の中学校を借りて行うふれあい祭り（ミニ運動会）のプログラムは、本人会議で話し合って決め、司会進行も本人たちが行います。競技の準備等は支援者も手伝います。その他の活動は、毎月1回約20名位がダンスの練習をして年に数回地域のイベントにも参加して披露しています。堂々と踊る姿を見た地域の方からエールを送っていただき自信につながっています。また、清掃のボランティア活動、ボウリング大会、年に1回講師を招いての学習会（制度について・パソコン）等仲間たちが誘い合って様々な活動に参加し、交流を図っています。



写真1 かなべ福祉まつり（野外ステージ）でダンス

■ 活動の経緯・体制

障害がある人たちが余暇の時間を使って様々な体験をしたいという思いから親及び賛同者たちが活動を支え本人主体の活動ができるようになってきました。現在は、正会員113名、賛助会員（個人）30名、賛助会員（団体）1団体です。毎月第4土曜日にダンスの練習日を設定し参加者は毎回20名程度です。神辺育成会主催のコンサートを2回開催し、文化会館で発表しました。練習は育成会のプレイルームや近隣の公民館を使用しています。

■ 活動の工夫・成果

ダンスの指導者は、インストラクターの先生に来ていただいています。20年前当初から変わりなく一人の先生が指導して下さっています。支援者（親・賛同者）も4～5人入り一緒に練習を行います。柔軟体操から始まり、いろんな曲でいろんな振付を覚えます。苦手なところは繰り返し練習し、できた時はみんなで「できた、うれしい！」気持ちを共有します。ステージ衣装は、親の手作りです。



写真2 ふれあい祭り（ミニ運動会）集合写真

「手話の魅力」を学んで、知って、広める活動中

功労者

■ 団体名・氏名

山口県手話サークル連絡協議会

■ 基本データ

継続年数	52年間
主な連携先	社会教育関係団体、文化芸術団体等
団体の規模等	616名

対象 視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

県内手話サークル間の交流、親睦及び手話技術の向上を図るために、サークル交流会・中国地区合同手話研修会を行っています。また、聴覚障害者の福祉向上に努めることを目的とした、ろうあ者の体験を聞く会・耳の日大会を実施しています。

■ 活動内容

山口県手話サークル連絡協議会の活動内容は、県内手話サークル間の交流、親睦、情報交換に関する事業や、手話技術の向上、障害者福祉に関する事業等多岐にわたっています。

主な活動としては、サークル交流会を企画し、スポーツイベントや文化的なイベントを通して手話サークル間の親睦や聴覚障害のある方との交流を図っています。

また、ろうあ者等の体験を聞く会では、聴覚障害者の方から仕事の話や、家庭の話を知る集会を通して、聴覚障害に関する理解を深めています。コロナ感染予防の観点から近年では、オンラインでの開催となりましたが、各地域で多くの方にご参加いただきました。

3月3日の耳の日にちなみ、耳の日記念山口大会を開催しています。その時代に合わせてテーマに沿った講演会などを企画し、手話や聴覚障害に関する情報発信を行っています。



写真1 サークル交流会「講演後、グループごと講師を交えての交流」

■ 活動の経緯・体制

山口県手話連絡協議会は1971年（昭和46年）9月18日に設立し、4サークルからのスタートでした。この間、山口県下各地において、聴覚障害者団体や各サークル間での交流、情報の交換、手話の研修など地域に根差した活動を広げ、現在では16サークル、600名を超える会員で構成されています。令和3年度は団体設立50周年記念として、記念誌を作成しました。

■ 活動の工夫・成果

手話を中心とした情報保障に関わる研修会の企画・運営を行うとともに、県内手話通訳者の養成や手話の理解・普及に尽力をしてきました。

また、平成23年度第11回全国障害者スポーツ大会「おいでませ！山口大会」をはじめ、県内で開かれるスポーツイベント等にサークル会員を派遣し、聴覚障害者の社会参加の促進に寄与しています。



写真2 ろうあ者等の体験を聞く会「萩会場から各会場へ配信」

車いすテニスをきっかけに社会参加を！

功労者

■ 団体名・氏名

日開野 博

■ 基本データ

継続年数	29年間
主な連携先	徳島県、徳島県障がい者スポーツ協会、四国大学等
団体の規模等	—

対象 視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複

活動分野 学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

「徳島車いすテニスクラブ」の発足当初より、29年にわたり、車いすテニスの指導及びアスリートの育成・支援を行い、選手の競技力の向上に貢献。また、県内の学校で車いすテニスの体験会や講演活動を実施するなど、車いすテニスの普及活動に取り組んでいます。

■ 活動内容

平成6年の「徳島車いすテニスクラブ」発足当初より、コーチ兼監督として車いすテニスの指導及びアスリートの育成・支援を行い、クラブのメンバー2名（藤本佳伸氏、岡部裕子氏）をパラリンピック出場に導きました。また、福祉の専門家として大学で教鞭を執る傍ら、行政と連携し、車いすテニスクラブのメンバーとともに県内の小・中・高・特別支援学校等で車いすテニスの体験会や講演活動を行うなど、車いすテニスの普及活動や、ノーマライゼーション理念の啓発にも尽力しています。

現在も、車いす利用者やボランティアと共に、月2回「徳島車いすテニスクラブ」を開催しているほか、令和元年度からは、公認パラスポーツ指導員養成講座の講師としてパラスポーツの指導者育成に携わるなど、幅広い活動を通して、車いすテニスをはじめとする障害者スポーツの普及活動や、障害者の生涯学習活動支援に取り組んでいます。



写真1 中四国車いすテニス協会強化練習の様子

■ 活動の経緯・体制

社会福祉関連の仕事を通じて知り合った障害のある方からの「自分もテニスをやってみたい」という声に応え、平成6年に県内初の「徳島車いすテニスクラブ」を立ち上げました。設立から29年となる現在も、月2回の「徳島車いすテニスクラブ」の活動のほか、車いすテニスクラブのメンバーとともに、県内の学校等で体験会や講演活動を行うなど、車いすテニスの普及活動を行っています。

■ 活動の工夫・成果

県内初となる車いすテニスのクラブを立ち上げ、障害のある選手が地域でスポーツを実施できる練習環境の整備を行ってきました。また、ボランティアと共に、県外遠征や旅行、外食等のレクリエーション活動を積極的に実施し、外出に消極的であった車いすユーザーのメンバーが社会と繋がりを持つことができるよう、外出機会の創出にも努めてきました。こうした活動により、クラブのメンバー2名をパラリンピック出場に導きました。



写真2 小学校での車いすテニス体験の様子

生涯学習のきっかけ作り

功労者

■ 団体名・氏名

内藤 久子

■ 基本データ

継続年数	12年間
主な連携先	文化芸術団体等
団体の規模等	—
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

12年にわたり、「芸術文化に触れる楽しさ」「作品を制作する達成感」を大切にしながら、障害者に対するパッチワーク講座、ワークショップの講師を務めています。また、障害者の芸術作品展の運営にも携わり、障害者の生涯学習に対する活動に取り組んでいます。

■ 活動内容

平成23年4月から12年にわたり、芸術文化活動を通して、障害のある方、ない方が交流を図ることができる講座でのパッチワーク講師として、多くの障害者の方々に指導してきました。ボランティア活動は、平成17年9月から鳴門教育大学附属特別支援学校中学部の工芸授業に参加したことから始まり、平成23年には同校の作業アドバイザーとなりました。東京2020パラリンピック開催前には、障害者の方々が布に記入したメッセージを他のボランティアの方々と一緒につむぎ合わせ、一つのタペストリーとして完成させることで、芸術文化を通して多くの障がい者の方々の関わりを深めるとともに、ボランティアの育成にも積極的に取り組んできました。

また、ボランティア団体「ねっとわ〜くAs（アズ）」に所属し、「徳島障がい者芸術祭エナジー」開催時には作品の搬入・展示作業を行うなど様々な機会を通じて障害者の芸術文化活動の支援を行っています。



写真1 講座の様子

■ 活動の経緯・体制

障害のある方が、趣味や時間がある時に物作りが自然にできて、「楽しさ」「喜び」などを感じて頂き、「生涯学習のきっかけになれば」という思いから特別支援学校や徳島県立障がい者交流プラザでのパッチワーク講座を始めました。指導する際には、介助者や手話通訳者、要約筆記者、ボランティアスタッフなどの協力を得ながら指導にあたっています。

■ 活動の工夫・成果

障害者の方々と共に活動していく中で気を付けていることは、障害特性を理解し、その方に合った指導や補助ができるよう心掛けています。また、特別支援学校生徒等が学校卒業後でも、余暇を楽しむことができるよう短時間で完成する作品を選び、「達成感」を感じていただくことで、生涯学習につながるよう工夫しています。



写真2 東京2020オリパラ応援キルト



障害のある方々と共にふるさとで明るく楽しく過ごす

■ 団体名・氏名

オッカリーナあつぷる

■ 基本データ

継続年数	10年間
主な連携先	あつぷるハウス久万、久万高原町教育委員会 等
団体の規模等	25名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

障害のある方とない方がオカリナ演奏を通じてコミュニケーションをはかり、ともにふるさとで、明るく楽しく過ごすことを目標に日々取り組んでいます。月2回定期練習を実施しており、障害のある方も一緒に取り組めるよう工夫をこらした練習方法を用いています。

■ 活動内容

オッカリーナあつぷるでは、障害のある方とない方がオカリナ演奏を通じてコミュニケーションをはかり、ともにふるさとで、明るく楽しく過ごすことを目標に日々取り組んでいます。オカリナを手にすることが初めての方がほとんどでしたので、小学生向けの曲からのスタートでしたが、現在では50曲演奏できるようになっております。

活動を重ねることで、町内外を問わず各種イベントや介護施設での訪問演奏等に呼んでいただけるようになり、令和5年11月28日（土）に開催されます愛媛県精神保健福祉大会で40回目の舞台発表となります。毎年多くの舞台発表の機会があり、演奏に自信が持てるようになりました。

練習は月2回実施しており（出演依頼のある際は回数を増やして実施）、障害のある方に配慮した練習方法やティータイムの時間を設けるなど明るい雰囲気づくりにつとめています。



写真1 演奏の様子

■ 活動の経緯・体制

えひめオカリナ協会より、オカリナの音色は久万高原町に合った優しい音色であり、高齢者になっても手軽に演奏することができるお話いただき、精神保健ボランティアグループ「ゆきんこ」会員が平成25年4月に本グループを発足させました。現在は「ゆきんこ」会員14名、福祉事業所職員3名、障害のある方8名の計25名体制で活動に取り組んでいます。

■ 活動の工夫・成果

視覚障害の方には、楽譜の階名を録音して自宅等でも練習できるようにしています。また、楽譜を読めない方にはカナ付けをして階名練習をしたり、オカリナの指使いを図示したりして、演奏に取り組めるよう工夫しています。練習の合間には、ティータイムを設けることで障害のある方と健常者が心おきなく会話しており和気あいあいとした楽しい雰囲気で活動できています。



写真2 日頃の練習風景

大城組の巨匠たち

～見て、聞いて、触れて、感じる思いを表現～



■ 団体名・氏名

大城組の巨匠たち

■ URL

<https://www.facebook.com/ohkigumikyosho>

■ 基本データ

継続年数	14年間
主な連携先	NPO法人、病院、美術館等
団体の規模等	15名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

「大城組の巨匠たち」は福岡と熊本の特別支援学校・特別支援学級に在籍した子どもとその保護者を中心に構成した団体です。2009年に発足し主に絵画や書、詩などの作品制作と、作品展開催を通じ支援の必要な子ども達の社会参加の場の拡大と、社会へ正しい啓発のメッセージを伝えることを目的として活動しています。

■ 活動内容

活動の中で大切にしてきたことは、子どもたちの可能性を「見つける」「伸ばす」「ひろげる」こと。

子どもたちが生活の中で何気なくつぶやいた言葉が詩になり、いつも好きで描いている線や色が形になったり絵になったり書になったりと、普段の生活そのものの輝きを家族と一緒に「見つけて」いきました。

家族と一緒に見つけた夢中になれること、好きなこと、得意なこと、自分にできること…を精一杯やることや、乗馬体験やシュノーケル、音楽鑑賞、旅行など、作品づくり以外の体験活動も行い、普段と違った場を経験したり様々な人たちと触れ合ったりすることで、やわらかい感性を「伸ばして」きました。

子どもの作品が一番輝くように、作品の仕上げとなる額や印鑑は家族が手作り。本人と家族との共同製作が作品をより輝かせています。子どもたちの純粋で素直な作品は、自分らしく生きることの幸せを呼びかけ、すべての人に大きな可能性があることを、作品展を通して「ひろげ」ています。



写真1 2023年 熊本市現代美術館での展示会

■ 活動の経緯・体制

アートで障害者の自立を支援しているNPO法人に声をかけていただき、「大城組の小さな巨匠たち」展の活動をスタートしました。熊本大学五高記念館や熊本市現代美術館、B型事業所等で作品展を開催し、2017年度からは関東での展示会も行いました。活動を通して知り合ってきたボランティアの方々も一緒に作品展を開催しています。子どもたちは社会人となり、2018年度からは「大城組の巨匠たち」に名称を変更しました。

■ 活動の工夫・成果

継続的に作品展を行っています。2013年には作品集を出版し、熊本市の姉妹都市である南仏プロバンスでのクリスマスマーケットで販売。海外でも紹介することができました。作品展の来場者の方からは、作品のよさだけでなく、子どもの純粋な心、家族の愛情やつながりの深さにも目を向けてもらいました。それが、子どもたちの次の作品づくりへの意欲の高まりにつながりました。また、家族にとっても子育ての励みになりました。



写真2 2010年 作品制作の様子

障がい者リーダーが地域を変える

功労者

■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人 自立支援センター
おおいた

■ URL

<https://jil-oita.sakura.ne.jp/>

■ 基本データ

継続年数	21年間					
主な連携先	大分県、別府市、県内大学、地域NPO					
団体の規模等	84名					
対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

障がい者が企画・運営の主体となって行政や民間事業者等と協働して重度障がい者が地域で自立した生活をおくる為の支援を行うと共に、障がい者の権利擁護や地域のバリアフリー化の推進を目的とした普及啓発活動を実施しています。県のユニバーサルツーリズム事業にも携わり、障がいの有無にかかわらず誰でも積極的に社会参加できるよう施設等のバリアフリー調査及び情報発信、相談対応等も行っています。

■ 活動内容

センター設立時より、障がい者に関連する生涯学習を幅広く実施してきました。大分県との協働で実施している「ユニバーサルデザイン（※以下UD）出前事業」では、県内の小中学校を対象に、障がいがある人も無い人も平等に社会参加できるために、UDが大切である事を伝えていきます。他にも、年間を通し多世代多様な方々を対象に、障がい者の権利について学ぶ講演や啓発活動を実施しています。最近では「見えない人のくらし体験」と題して、視覚に障がいがある講師が実体験を元に様々なシチュエーションでの疑似体験を行いました。また、新たに別府市社会教育課と連携し公民館で実施する「湯のまち学びカレッジ」を始める等、多岐にわたる先進的な活動を実施しています。

近年では、「別府市令和5年度新採用職員研修に伴う要配慮者疑似体験研修」を別府市と協働で開催する等、地域の自治体やNPO、企業等と連携・協働した取組を実施し、インクルーシブな社会の実現を目指した活動を展開しています。



写真1 別府市新採用職員要配慮者疑似体験の様子

■ 活動の経緯・体制

センターは、「障がい者が地域で自立した生活を送るための支援をすること」「障がいがある方もない方も分け隔てなく社会参加できる地域をつくること」を目的に設立され、2002年にNPO法人化しました。「Enjoy My Life～自分らしさをありのままに～」という理念のもと、「重度障がい者への自立支援」「ユニバーサルデザイン社会の実現」「バリアフリー観光・旅行の普及」の3本柱で事業を展開しています。

■ 活動の工夫・成果

全ての取組において障がい当事者がリーダーとなり、障がい者と健常者が対等な形で参加できるよう工夫しています。別府港UDターミナル推進協議会委員として、障がい当事者の意見を取り入れる形でのフェリーさんふらわあ別府港新ターミナル建設を実現ができました。2023年4月より毎月1回、福祉に関する学習・交流会「べっぶくクラブ」を始めました。他にも、共生社会、相互理解を図る為の企画を毎月実施しています。



写真2 全参加者・車椅子乗車体験の様子

障がいがある方の水泳指導 38年間ひたむきに

功労者

■ 団体名・氏名

藤本 正広

■ URL

<https://www.kataroue-oita.jp/organization/>

■ 基本データ

継続年数	38年間
主な連携先	大分県身体障害者福祉センター
団体の規模等	24名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

障がい児・者を対象にした水泳指導を38年間実施。障がい者水泳クラブ「あすなろ」の設立者として個々の障がい区分に合わせた指導により九州大会や全国大会で入賞する選手を育てている。またクリスマス会や健常児との一泊交流会等を通じて子供たちの心身の成長や障がい理解の機会を提供するとともに、各種団体や協議会の委員として障がいスポーツの振興に尽力している。

■ 活動内容

藤本氏は1985年6月に「あすなろ」を設立して以来、38年間の長きにわたり個々の障がいに合わせた指導を週3回以上行い、運動機能の維持向上及び水泳競技力の向上に努めてきた。所属選手はジャパンパラ大会、全国障害者スポーツ大会等多くの上位大会に出場を果たしている。また、水泳教室の講師や関係団体の委員を務めて障がい児者の水泳環境の向上に努める等、大分県障がい者水泳指導の第一人者として活躍している。

- ①大分県身体障害者福祉センター主催「親子水泳教室」講師（年10回）
- ②「障がい者水泳クラブあすなろ」事務局
 - ・通常練習…毎週金、土、日曜日 2～3時間
 - ・大会出場選手指導…九州障がい者水泳選手権大会、ジャパンパラ大会等
 - ・普及啓発活動…健常児・者との交流事業として「宿泊交流会」「クリスマス交流会」
- ③大分県身体障がい者水泳指導者協会代表
- ④県身体障害者福祉センター運営委員



写真1

手話で指導する藤本氏

■ 活動の経緯・体制

藤本氏は新日本製鐵(株) 広畑製鐵所在職中、ボランティアとして地域の子供たちの水泳指導に関わる中で、聴覚障がいのある子どもの指導者不足を知る。大分に転勤後手話を習い、水泳クラブ「あすなろ」を設立してこれまで障がい種を問わず115名の指導を行ってきた。経費は会費と「大分市1%応援事業」等により捻出。クラブ会員18名を、藤本氏を含めたボランティア6名で支えている。

■ 活動の工夫・成果

藤本氏は聴覚障がいがある子どもの指導時、手話を使うだけでなく肩を軽くたたいて危険を知らせる等の工夫をしている。また、「ルール、時間、約束を守る」「挨拶をする」を徹底し生きる力を養っている。

<競技> ・日本パラ選手権大会(100m平泳ぎ1位)、全国障害者スポーツ栃木大会(25m背泳ぎ1位)

<普及啓発活動> 「宿泊交流会」参加者30名、「クリスマス交流会」参加者37名



写真2 あすなろのメンバーと（左上が藤本氏）

こころも体もほっとする、そのままの自分でいられるところ 「ポン太クラブ」

功労者

■ 団体名・氏名

子どもと家族・関係者の集まり
「ポン太クラブ」

■ URL

<https://ponta-miyazaki.sakura.ne.jp/>

■ 基本データ

継続年数	17年間
主な連携先	九州大学山下亜紀子氏、霧島おむすび自然学校等
団体の規模等	会員約100名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

障害当事者を中心に家族やボランティアが集まり、それぞれにできることを話し合いながら、生涯にわたって支え合う力や関係を育てることを目指しています。活動は遊びの体験、絵画教室、学習支援、講師を招いての学習会、手話教室、茶話会、相談等です。2006年から皆で集まり、誰も無理することなく、自分にできることをできる範囲で楽しみながら活動しています。

■ 活動内容

ポン太クラブは障害があってもなくても、子どもも大人も誰でも参加できます。2006年～子ども達を中心に家族や学生・社会人ボランティアと交流しながら様々な遊びを体験する「ポン太キッズ」、外部講師を招いての「学習会」、2009年～宿題や問題集など本人の希望やペースに合わせた学習支援「ポン太塾」(月2回)、2011年～当事者や保護者の情報交換「茶話会」(年6回)、2016年～自由に描く絵画教室「楽描(らくがき)」(月2回夜)、2021年～絵画教室「アトリエポン太」(月1回日中)、2022年～高校生が企画する遊びの体験「HAPPYポン太」(年3回)、県内7団体が集まり不登校傾向や困り感のある子どもを対象に(不登校経験のある若者をスタッフに迎え)、県内各地での特色を生かした仕事や学校の体験活動を行う「みやぎと子ども達を紡ぐプロジェクト」(年10回)を開催。今年新たに手話を学んでいます。また毎年、絵画教室での作品でカレンダーを作成・配布し、多くの方に喜ばれています。



写真1 絵画教室「楽描(らくがき)」

■ 活動の経緯・体制

2005年、地域で「安心して遊べる場や学べる場がほしい」と障害当事者とその家族が集まり、学習会を開催しました。その時に支援者から「みんなで力を合わせて、それぞれが持つ力をそれぞれの立場で役立てていこう」という言葉があり、1年間の試行錯誤を経て、2006年ポン太クラブとして活動を開始しました。現在は役員11名、家族会員・個人会員・賛助会員約100名、その他、たくさんの方のボランティアが集まり一緒に活動しています。

■ 活動の工夫・成果

SNSグループで情報を提供し、会員各自が参加したい活動を自由に選びます。活動内容は会員の希望を取り入れた幅広いものとし、困りごとや心配事があれば一緒に考え対応します。講師や支援者、学生・社会人ボランティアと一緒に参加することで、当事者だけでなく保護者やきょうだいや安心して活動を楽しむことができます。参加者全員が楽しみながら学べる場です。



写真2 自然とあそぼう！野外ふれあい手話教室

手話を言語に～「手話サークルえびの会」

功労者

■ 団体名・氏名

手話サークルえびの会

■ 基本データ

継続年数	45年間
主な連携先	小中学校、行政、医療機関、警察等
団体の規模等	約30名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

1978年（昭和53年）に、聾者2名、健常者1名で手話サークルえびの会を設立。手話を身近なものとしてより多くの人に関わってもらえるよう、手話講習会の開催や啓発活動を実施しています。また、聴覚障害者が参加する講演会等において、本会メンバーが手話通訳として社会参画の支援を行っています。

■ 活動内容

手話サークルえびの会では、設立当時は聴覚障害者の福祉向上を目的として手話の普及活動を始めました。

現在では、手話講習会の開催や手話指導、手話通訳者の育成及び指導、聴覚障害者を対象とした手話教室、各種研修並びに学習会への参加、聴覚障害者と健常者との交流会の実施、手話の啓発活動、職業相談・医療・保健・警察等への通訳依頼に対する通訳者の派遣を行っています。

市民を対象に、入門編・基礎編の手話講習会を毎週1回開催、市内の小中高等学校の児童生徒向けの手話教室にも講師を派遣し、手話の理解や普及に努めるとともに、聴覚障害者の福祉の向上を目指しています。

手話の向上を目指した、会員向けの学習会や研修も積極的に実施しています。



写真1 週1回の手話教室の様子

■ 活動の経緯・体制

1978年に設立されて以来45年間の長い活動の実績のもと、平成30年度に「えびの市こころをつなぐ手話言語条例」が制定されました。えびの市福祉課と連携し「手話は言語である」という認識を深めてもらうため、手話教室等様々な活動を行い、手話への理解・普及を図るとともに聴覚障害者の福祉の向上に努めています。

■ 活動の工夫・成果

会員同士の研修会や勉強会も実施し、一人一人に合わせて指導・育成を実施しています。現在は約30名の会員で活動し、より多くの市民へ手話を身近なものとして感じられるよう啓発を行っています。

DVDを活用するなど、初心者でも分かりやすい研修に心がけています。



写真2 会員の集合写真

誰もが楽しめるゴルフ環境を創ろう！



■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人日本障害者ゴルフ協会

■ URL

<http://www.dga-japan.com/>

■ 基本データ

継続年数	28年間
主な連携先	(公財) 日本ゴルフ協会/(公財) 日本パラスポーツ協会
団体の規模等	500名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

「ゴルフをパラリンピックの正式種目に」「誰もが楽しめるゴルフを」「未長く続く組織作り」を目標として、日本における障害者ゴルフの普及と振興のために活動しています。

■ 活動内容

肢体不自由（上肢、下肢、片マヒ、重複、車いす）と知的障害のゴルファーを主体とし、主な活動内容は以下の通りです。

- ・月例会（関東、中部、関西支部で原則月1回）
- ・レッスン会（関東、中部、関西支部で原則月1回）
- ・公式競技会（日本障害者オープンゴルフ選手権・日本片マヒ障害オープンゴルフ選手権・全国障害者ゴルフ普及大会・日本障害者ゴルフマッチプレー選手権）
- ・海外遠征（アメリカ ヨーロッパ等）

障害があっても自由にゴルフができる環境を作り、次世代の障害者ゴルファーがその環境と活動を受け継いで、障害者ゴルフをもっと活性化させることを願って活動を続けています。



写真1 第28回日本障害者オープンゴルフ選手権、スタート前の集合風景

■ 活動の経緯・体制

1991年の設立ですが、大会を行うゴルフ場がなく活動は停滞していました。1996年に「第1回日本障害者オープンゴルフ選手権」を栃木県で開催して以来、恒常的な活動（上記）を続けています。

本部（東京）の他、中部、関西に支部があり独自の活動を行なっています。理事は13名、監事1名を役員とし、定期的に理事会を開催。また財務委員会、競技委員会、クラス分け委員会があり、定期的に会合を行なっています。

■ 活動の工夫・成果

「日本障害者オープンゴルフ選手権」は当初は30人ほどの参加者しかいませんでしたが、現在では80人ほどの参加があります。他の公式試合も50～60人の参加者があり活況を呈しています。海外遠征や海外の障害者ゴルフ団体との交流の成果でアメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、アジア、南米からの選手の参加もあります。国内でも地方大会の開催や支部活動の成果から、全国に会員が増えています。



写真2 車いすゴルファーとプレーを補助する学生ボランティア

この野球を未来の障害児童たちに



■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人日本身体障害者野球
連盟

■ URL

<https://www.jdl.or.jp/>

■ 基本データ

継続年数	30年間
主な連携先	(社福)神戸市社会福祉協議会、兵庫県立但馬ドーム
団体の規模等	会員数約1000名

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

障害者野球の普及・振興を図り、障害者の心身の健全な発展に寄与することを目的として活動しています。4年に一度開催している世界大会をはじめ、春と秋の全国大会のほか、地区大会や交流大会の開催、奨励、指導者講習会・野球教室の開催など、国内外の障害者野球に関する情報収集、用具の改良、研究なども行っています。

■ 活動内容

障害者野球の普及・振興を図ることで「障害を持っていても当たり前で野球を選べる環境」を創るために身体障害者野球大会の開催を行っています。具体的には、春と秋に年2回の全国大会を開催しており、夏には全国7ブロックで地区大会を開催しています。

また、4年に一度世界大会の開催を行うことで世界へも普及活動をしており、2023年9月にバンテリンドームナゴヤにて第5回世界身体障害者野球大会を行いました。MLB JAPANや日本野球連盟にも協力頂き、2日間で来場者数が8000人を超え、メディアにも大きく取り上げられ盛り上がりました。

他にもプロ野球各球会協力による身体障害者野球教室も各地域で順次開催しています。今後はさらに広く障害のない人に対しても普及活動を行い、障害者に対する正しい理解と認識を深めてもらい、障害に関わらず共に生活し活動する社会を創り上げていこうとするノーマライゼーションの実現を目指します。



■ 活動の経緯・体制

平成5年に設立し「ルールが障害に合わないのであれば、障害にルールを合わせよう」という理念のもとに活動を続けてきました。現在は全国各地に38チーム、約1000名の会員が所属しており、各自が自己研鑽や障害者野球の普及・振興に努めています。内部障害や聴覚障害などの肢体障害以外の方も参加できるようにルールの見直しを重ね、より幅広い障害者が野球を楽しめるように工夫しています。

■ 活動の工夫・成果

様々な障害に合わせるために「下肢障害選手は代走者を設ける」「松葉杖や椅子などの補助具が使用可能」「バントや盗塁が禁止」である等の特別ルールを制定しています。また、所属しているコーチやサポーターに対し、障害者のサポートに関わる資格の取得の推奨・支援を行っています。現在は順調に会員数が増え、選手だけでなく、それをサポートする健常者やパラスポーツ指導員、理学療法士も増加しています。



写真2 車椅子や椅子を補助具として使用する

インクルーシブスポーツキャラバン

奨励活動

■ 団体名・氏名

障がい者サポーターズGolazo！

■ URL

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100088934271363>

■ 基本データ

継続年数	4年間					
主な連携先	尚絅学院大学、ベガルタ仙台、多賀城市等					
団体の規模等	10名					
対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

障がいの有無にかかわらず参加できるスポーツイベント「インクルーシブスポーツキャラバン」を宮城県内各地を巡回しながら年10回程度開催。スポーツを楽しみながら多様性を認め合える本イベントの参加者は延べ2,000名を超えています。昨年10月にはベガルタ仙台及び尚絅学院大学と相互協力連携協定を締結し、持続可能な活動として取り組んでいます。

■ 活動内容

インクルーシブスポーツキャラバンは、障がいの有無にかかわらず誰もが楽しめる場所の創造を目指し、本会の他、尚絅学院大学・ベガルタ仙台・障がい者サッカーチームのSendaiForzaや開催地の各自治体の協力のもと、宮城県内各地を巡回しながら月に一度程度、県内の特別支援学校・学級の児童生徒・卒業生・保護者および開催地近郊の小学校通常級児童・保護者を対象に、スポーツを通じた共生社会の実現に向けた活動として開催しています。イベントは各約30分ずつの三部構成となっており、①ベガルタチアリーダーズによる準備運動から始まり、チアダンス体験、②尚絅学院大学の大学生たちが企画した交流のレクリエーション、③ベガルタ仙台のアカデミーコーチ主導によるボールを使った運動から最後はサッカーの試合まで。参加者のサポートには大学生の他、障がい当事者であるSendaiForzaの選手も当たり、誰もが取り残されないよう配慮しています。



写真1

参加者全員で集合写真！

■ 活動の経緯・体制

宮城県内各地の特別支援学校でPTA会長（結成当時）をしているオヤジ達で立ち上げたオヤジの会です。障がい理解啓発や共生社会実現のためには、当事者がもっと外に出て直接触れ合い多様性を知ってもらうことが大事と考えたオヤジ達が「オヤジ達の力で共生社会の実現を！」を合言葉に、普段仕事で培っている企画力や人脈を駆使して子供たちや当事者家族向けに、産・学・官連携したイベントを開催しています。

■ 活動の工夫・成果

障がい当事者含むスタッフ全員が日本サッカー協会公認のコーチライセンス「キッズリーダー」を取得し、子供たちのサポートをしています。障がい児保護者のイベント参加への抵抗感を軽減するため、募集の際は、サポートコース（障がい児）、オープンコース（健常児）と分けていますが、実際の活動は全員が一緒に同じ活動をして、多様性を認め合う交流および理解啓発につながっています。



写真2

みんなでチアダンス！

Chain_of_Smiles_Project

～スポーツを通して秋田の豊かさを体感しよう～



■ 団体名・氏名

Chain_of_Smiles_Project実行委員会

■ URL

https://www.instagram.com/chain_of_smiles_project/

■ 基本データ

継続年数	4年間
主な連携先	スポーツ団体、地元企業、学校等
団体の規模等	10名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

秋田県内の障害者スポーツに関わる医療従事者（医師、理学療法士、作業療法士等）の有志で構成された団体が中心となり、県内在住の障害児者及びその家族を対象に、多様なスポーツに参加する機会を提供しています。障害者の社会参加やコミュニケーションを図るとともに、活動を通じて障害の有無に関わらず身近にスポーツを楽しめる社会が実現できるよう努めています。

■ 活動内容

障害児者やその家族が安全に安心して多様なスポーツを楽しめる機会を提供しており、ボッチャやニュースポーツの体験をはじめ、「ユニバーサル野球」やダンスパフォーマンス、マリンスポーツ、冬の活動、さらにはe-スポーツなど、幅広い活動に取り組んでいます。また、自分たちが主催する活動以外にも、他団体の主催行事にも積極的に協力して連携を深めています。

医療専門職が企画運営とリスク管理を行うことで、参加できる方の幅が広がっています。重度の障害がある参加者に対しても、表情やしぐさから意図を読み取り、少ない動作でも使えるように道具を改良するなど、個々の障害に合わせて誰でも参加できるよう努めています。

様々な活動のノウハウを蓄積していくことで、スポーツが身近で当たり前実践できる社会づくりを目指しています。スポーツを通じた健康増進や社会参加への一助、さらには疾病予防など社会的な課題にも貢献したいと考えています。



写真1 誰もが楽しめるユニバーサル野球

■ 活動の経緯・体制

従来から障害児やその家族がスポーツを始めるきっかけとなる体験会をボランティアで行っていましたが、東京パラリンピックによる関心の高まりを契機に、障害者スポーツの選択肢を増やすため、趣旨に賛同する医療従事者が集まって団体を結成しました。

令和元年から現在の体制となり、民間の助成金を活用したり、関係団体・企業の協力もいただいたりしながら活動の幅を広げています。

■ 活動の工夫・成果

障害者スポーツを軸に、高校生、大学生、企業・団体など多様な主体を巻き込みながら、個人や家族だけでは難しい活動の機会を提供しています。

地元プロスポーツチームの試合など集客力のあるイベントに合わせて活動することで、効果的に周知が図られるように工夫しています。活動の様子は報道やSNSなどを通じて発信され、県民の障害者スポーツや共生社会に対する理解促進にもつながっています。



写真2 サーファーたちと海を楽しんだ一コマ

訪問カレッジ@希林館

奨励活動

■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人地域ケアさぼーと研究所

■ URL

<https://ccsupport.webnode.jp/>

■ 基本データ

継続年数	11年間
主な連携先	特別支援学校、大学、社会教育関係団体
団体の規模等	学習支援員22名 学生19名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

医療的ケアや重い障害のために生活介護事業所などへの毎日の通所が困難な18歳以上の障害のある方の自宅、病院、施設等へ月1回～週1回程度、学習支援員を派遣して豊かな地域生活と生涯学習支援を目的とした事業を実施しているほか、支援者の育成、支援に係る人材の開発、相談支援等を行っています。

■ 活動内容

2023年度「訪問カレッジ@希林館」で学ぶ学生は18歳から65歳までの19名。居住場所は自宅12名、病院・施設入所7名。医療的ケアは全員必要で、人工呼吸器装着者は11名と濃厚な医療を必要としています。学びは月1回から週1回、およそ1回当たり2時間を目安に、内容は学生やご家族の希望で決めています。秋には、学習を発表する文化フェスタを開催しています。

神経難病で人工呼吸器装着をした和斗さん（2013年度入学）の学びを紹介します。訪問カレッジ入学後、意思伝達装置を使ってメールやSNSなどで発信する力、家業（訪問介護事業所）のホームページ作成や勤務表など仕事につながる学びに取り組んでいます。また、スイッチでiPadを操作して、事業所が取り組むフードパントリーで受付係を担当しています。

学生は皆、学校教育で培った力を基礎にして各自の学びを広げ、保護者からは「学びが生きる力になっている」と感想をいただいています。



写真1 訪問カレッジ文化フェスタ（文化祭）

■ 活動の経緯・体制

本会は、平成9年度に任意団体「医療と教育研究会」として発足し、学校における医療的ケア課題に取り組んできました。その後、医療的ケアが必要な重度障害者の地域生活の充実をテーマに事業展開を考え、平成19年度から特定非営利活動法人となり、平成24年から喀痰吸引等第三号研修の登録研修機関の研修会開催と「訪問カレッジ@希林館」の事業を開始しました。学習支援員は、全員、元特別支援学校の教員です。

■ 活動の工夫・成果

コミュニケーション支援は、平成24年の事業開始から取り組んでいます。平成25年には公益財団法人洲崎福祉財団の助成により視線入力意思伝達装置、タブレット等のICT機器を活用した学習を開始し、更にコロナ禍に対応した授業実施のため、同財団の助成でオンライン授業に必要な機器を導入しました。他に、重度障害者の読書活動として公益財団法人伊藤忠記念財団のマルチメディアデジ図書「わいわい文庫」を活用しています。



写真2 フードパントリーの受付係の練習中



広げよう 深めよう 私の個性 3C「夢」club

■ 団体名・氏名

3C「夢」club実行委員会

■ 基本データ

継続年数	4年間
主な連携先	小・中学校、特別支援学校等
団体の規模等	会員約100名

対象	視覚	約聴覚	知的	肢体	病弱
活動分野	体験活動	スポーツ			

活動の概要

3C「夢」clubは、雲南市内の特別支援学級や特別支援学校の児童生徒を対象に体験活動を実施しています。生涯にわたって様々な学習や体験活動に挑戦していくような、意欲や基本的な知識・技能の習得を目指し、支援が必要な子どももそうでない子どもも一緒に学ぶインクルーシブな社会を願っています。

■ 活動内容

3C「夢」clubは「chance」機会を活かす、「challenge」果敢に挑戦する、「change」変化・進化する、をコミュニケーションワードとして、令和元年度から実施し、現在に至っています。

活動の大きな特徴は、雲南市内の全域で送迎を行い、保護者の負担を軽減していることと、児童生徒や保護者の不安を少なくするために、プロの指導者による体験活動を展開していることです。

活動は、原則、毎月第2土曜日と日曜日に実施し、令和4年度は「水泳と水遊び」「楽しい絵画と楽しい書道」「お花を楽しくいけましょう」「雲南市を歩いて何かを発見しよう」「手芸・ものづくりの世界」「役に立つ料理教室」「つくって遊ぼう」の7教室8コースを実施しました。

令和4年度の参加児童生徒は、38名がエントリーし、月1回の土曜日、日曜日の活動に延べ52名が参加しました。参加率は、雲南市内特別支援学級の児童生徒数の約30%弱です。



写真1 中学三年生の5日間のインターンシップ

■ 活動の経緯・体制

障がいのある子どもたちや経済的に困難さを抱える子どもたち、不登校の子どもたちなど、様々な状況にある子どもたちが社会教育の場における学習や体験活動に参加する機会は極めて少ない現状があります。こうした課題に対して、特別支援学級の子どもたちに特化した体験プログラムを実施し、社会教育の場での教育の機会均等を目指しています。体制は、事務局、指導者、実行委員、支援スタッフ、高校生、大学生で組織しています。

■ 活動の工夫・成果

何よりも子どもたちが楽しそうに活動している姿に指導者、スタッフが元気づけられるとともに、世代間を超えた楽しい子どもの居場所になっています。

雲南市内の特別支援学級の子どもたちが学校教育の場で交流する機会は少なく、3C「夢」clubの活動の場が他校の子どもたちとコミュニケーションを深める好機となっています。

5日間のインターンシップは大きな成果となりました。



写真2 水泳と水遊びコース

繋がりで支える放課後子ども教室「ふたば教室」

奨励活動

■ 団体名・氏名

ふたば教室

(勝央町教育委員会-勝央町学校協働協議会)

■ 基本データ

継続年数	5年間
主な連携先	小学校、中学校、公民館、文化ホール等
団体の規模等	5年間延べ参加数 573名

対象	視覚	聴覚	知的	肢体	病弱	重度重複
活動分野	学習	文化芸術	スポーツ	情報保障	普及啓発	その他

活動の概要

放課後子ども教室「ふたば教室」において、障害のある子供の学校外での学びの支援や体験活動を中心とした取組を行っています。専門的知識を持つ言語聴覚士が中心となり、子供に対して、学習支援、運動、遊びを通じた自立活動等を行う傍ら、保護者に対しても、子供の特性や子育てについて、保護者同士が交流できる場を提供しています。

■ 活動内容

言語聴覚士が中心となって、子供たちの実態に合わせた集団・個別支援を行っています。プリント課題を用いた「学習支援」、平均台やペットボトルを用いた「運動」、挑戦カードやゲームなどを用いて自立活動に繋がる「遊び体験」を取り入れています。情緒的支援が必要な子供の割合が大きいため、コミュニケーションに関わる内容を選定しており、学びから得られたスキルの定着と活用を確保しています。保護者は、子供の活動を見守りつつ、我が子の特性や子育てについての悩み等を話し、共感しながら障害への理解や子供への関わり方等の学びを深めています。『子どものプライドを尊重する』『安心して参加できる』『楽しい活動』の3観点を重視し、学ぶ喜びが感じられるよう、スモールステップでの成功体験の積み重ねを大切にしています。



写真1 平均台を使った「運動」

■ 活動の経緯・体制

「ふたば教室」は、小学生以上の子供の言葉や発達について相談できる場が欲しいという、障害児を持つ保護者のニーズに応える形で、平成30年度から親子参加型の放課後子ども教室としてスタートしました。発起人は自身も障害児の保護者であり、本教室のコーディネーターとして活動しています。言語聴覚士が支援の中心となり、元園長や障害児を持つ先輩保護者等がスタッフとして子供や保護者を支援しています。

■ 活動の工夫・成果

言語聴覚士による専門的な見地を活かし、子供たちの発達に応じた学びの場づくり、体験活動の充実が図られるよう、グループ分けと活動内容の選定を行っています。個に応じた目標を設定し、段階的な遊びや運動を通じて成長できるよう計画的な支援を行っています。本教室卒業者に対し、スタッフへの相談機会を設けたり、子ども・若者サポートネット等と連携したりして、卒業後も切れ目のない支援体制を整えています。



写真2 保護者の交流・専門家のアドバイス



コラボレイティブ・ラーニングによる大学づくりの実践

■ 団体名・氏名

長崎国際大学ピア・サポート学生組織

■ URL

<https://www1.niu.ac.jp/life/assistance/>

■ 基本データ

継続年数	5年間
主な連携先	大学
団体の規模等	53名
対象	視覚 聴覚 知的 肢体 病弱 重度重複
活動分野	学習 文化芸術 スポーツ 情報保障 普及啓発 その他

活動の概要

2018年度にピア・サポート学生組織は結成され、障害学生の学修支援に留まらない活動を幅広く展開しています。障害学生と協働したバリアフリーマップの製作、障害学生支援に関する研修会の実施、図書館の利用等大学生活を送る上でのガイドヘルプや支援機器を用いた情報保障の実践等、障害のある学生が参画し、関係教職員と協力しながら企画・運営を行っています。

■ 活動内容

ピア・サポート活動は、一般的に障害のある学生などの学修支援を指しますが、当該組織はその枠組みにとらわれない独自の取組を展開しています。当該組織は、障害当事者が参画することを積極的に奨励し、身体障害当事者などとの交流や学び合いのなかで様々な活動を行ってきました。これまで、障害当事者と協力し、本学のバリアフリーマップを製作したり、障害の理解・啓発のための研修会や他大学との交流会、障害学生支援先進校の視察を実施したりしました。その過程には、障害当事者と他学生とがともに学び合う機会が創出されるだけでなく、多様な人々が共生できる大学づくりに障害当事者も貢献する側面を有しています。

また当該組織は、障害のある学生の課外活動における移動支援や、支援機器を用いた情報保障を実践し、障害者の生涯学習支援活動を継続して実施しています。さらに、関連諸学会にて定期的に学術発表を行い本活動の普及に努めています。



写真1 キャンパス内のバリアフリー調査

■ 活動の経緯・体制

2000年の開学当初より、有志による障害学生への学修支援活動が行われてきました。その活動をベースとして、2017年度より本学に障害学生支援の部門を設け、ピア・サポート活動を本格的に開始しました。さらに、2018年度には学生が主体となって本活動の充実・発展を図るために長崎国際大学ピア・サポート学生組織を立ち上げ、その運営を行う執行部も組織されました。本活動は、関係教職員と連携しながら展開されています。

■ 活動の工夫・成果

朝日新聞出版が発刊する「日本の大学総合評価誌2024 大学ランキング」の障害学生支援分野において、本学が第9位に選出されました。また、ピア・サポーターは組織結成当初と比較し、多い年度で約2.1倍の登録者数となり本活動の意義に賛同する学生は増えています。

また、他大学のピア・サポーターや教職員と学術交流を行うなかで、本組織の取組の成果および課題を点検し、活動の充実を図っています。



写真2 支援機器を用いた情報保障

文部科学省Webサイトでは、
障害者の生涯学習の推進に関する情報を公開しています。
是非ご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index.htm



障害者の生涯学習

検索

